

消費者行動論（22356）

後期

Consumer Behavior

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	3 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 田原 静

授業の概要

我々は日々、様々なものを消費している。その一つ一つは小さく何気ないものではあるが、日々の生活や経験、記憶を創り、社会や文化を創ることにもつながっている。講義では、我々が消費者として商品選択・購入時に行う意思決定のプロセスに関する知見から、近年企業も強く関心を寄せる購入後の消費者行動についての理論を学び、これらの体系的な理解を深めることを目的とする。また単に消費者行動だけでなく、企業のマーケティング活動との関わり、社会・文化との関わりについて触れる。

到達目標

- 1 消費者行動論の基礎理論を理解し説明できる
- 2 自身や周囲の消費者としての行動と照らし合わせた際、理論をベースに分析できる

評価方法

期末試験の成績60%(到達目標1,2を評価)、小レポート30%(到達目標2を評価)及び授業態度10%によって評価する。

注意事項

- ・授業中は私語厳禁
- ・携帯電話・スマートフォンの使用は、講義に関係する事に限る
- ・授業回数の3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	消費とは何か
第3回	消費者ニーズ，動機
第4回	買い物行動と消費者の意思決定プロセス
第5回	消費者と態度
第6回	消費者と知覚・学習
第7回	消費者と記憶
第8回	消費者と知識・感情
第9回	自己と他者 所有・信頼・価値
第10回	自己と他者 幸福・フロー体験・本物
第11回	消費者文化
第12回	マクロ視点からの消費
第13回	オンライン消費者行動
第14回	企業と消費者
第15回	講義のまとめ

授業外学習

- ・予習について：次回授業の該当箇所にあたる教科書の範囲を事前に読み，概要を把握しておくこと(各2時間)
- ・復習について：授業内容のノート整理，復習をしておくこと(各2時間)
- ・できれば新聞やネットのニュースメディアに目を通し，授業内容に関連する内容があれば興味を持って情報収集してみて欲しい

教科書

田中洋(2015)「消費者行動論 (【ベーシック+】)」中央経済社 978-4502126512

参考書

井上崇通(2012)「消費者行動論」同文館出版 978-4495644710

朝野 熙彦(2016)「マーケティング・サイエンスのトップランナーたち～統計的予測とその実践事例」 978-4489022340

他，講義中に適宜紹介

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 芦田雅子

授業の概要

国連世界観光機関は今後も世界的に交流人口が増加することを予測している。経済的にも大きな経済効果が期待される観光は、一方で人間や社会的環境、あるいは自然環境などが原因となるリスクを抱え懸念される。このように正と負の双方に波及する観光全般の危機管理について、産業と観光者の立場からどのようなリスクがあるのか理解を深める。また年間1700万人もの日本人が海外へ出国している近年、旅行中の危機管理は観光者の安全を守るという点で重要なものとなる。文化や法令の違いなどから起こるリスクについて解説し、それらの危機管理についても実践的な方法論を基に解説する。

到達目標

- 1、観光産業の成長を阻むリスクについて理解する。
- 2、観光者が受けるリスクと減少について理解する。
- 3、観光と危機管理について、理論のみならず実例に基づく知識を身につける。
- 4、観光経済が、負の出来事によってどのように影響を受けるのかを理解する。

評価方法

- ・レポート30%（到達目標 1 ～ 4 を評価）
- ・定期試験70%（到達目標 1 ～ 4 を評価）

注意事項

- ・新聞やメディアなどで、過去に起こった観光に関連した事件、危機的な事例について調べること。
- ・観光（旅行）のリスクを理解するために、事例を基に原因・発生・経緯・回復・究明と時系列で理解すること。
- ・観光のリスクの対処と防止には、専門知識の蓄積が必要となる。多くの事例を勉強することを心がけること。
- ・参考書を使用する際には、授業のときに指示します。図書館で閲覧が可能です。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス（授業の概要と進め方）
第2回	観光における危機管理（基本的理解）
第3回	観光における危機管理（具体的事例を基に）
第4回	負の出来事と人間の活動域の変化について
第5回	観光における負の事例（海外のテロ事件など）
第6回	観光における負の事例（西日本豪雨・東日本大震災など）
第7回	観光産業と危機管理（旅行業の事例を基に）
第8回	観光産業と危機管理（運輸系企業の事例を基に）
第9回	負の出来事による被害と回復（参考書を使用）
第10回	旅行危機管理（高齢者の事例を基に）
第11回	旅行危機管理（幼年者の事例を基に）
第12回	観光と保険商品

回数	内容
第13回	学外実習 （＊日時と内容は決定次第連絡する。）
第14回	外部講師 （＊日時と内容は決定次第連絡する。）
第15回	総括

授業外学習

回数	内容
第1回	授業計画に示した参考書の序論を事前に読み、本講義の概略をつかんでおくこと。（2時間）
第2回	観光における危機管理の定義について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第3回	観光の効果について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第4回	参考書「危機管理論と観光」指定ページをあらかじめ読む。（2時間）
第5回	海外のテロ事件について調べる。（2時間）
第6回	西日本豪雨と観光被害について調べる。（2時間）
第7回	旅行業・宿泊業の危機管理について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第8回	運輸系企業の危機管理について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第9回	参考書「危機管理論と観光」指定ページをあらかじめ読む。（2時間）
第10回	高齢者と旅行危機管理について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第11回	幼年者と旅行危機管理について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第12回	旅行保険について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第13回	学外実習の下調べをする。（2時間）
第14回	外部講師の授業内容をあらかじめ下調べして、質問を考える。（2時間）
第15回	総括

教科書

授業中に随時紹介する。

参考書

「危機管理論と観光」D．グレーサー著 くんぷる発行（ISBN-10: 4875511981）

備考

年次	2 年
対象	22 ～ 201
単位数	2．0 単位
担当教員	 高橋良平

授業の概要

現在、「地方創生」が注目されている。地域が自ら考え、独自の資源を活かして地域振興を図る時代である。人口減少、社会保障制度、東京一極集中など難しい問題が山積するなかで、地域の自立と活力の創造は重要性を増している。「地域政策論」は社会科学の学際的な領域であり、地域課題の解決に向けて経済、経営、行政・財政、法律など既存の学問体系にとらわれない実践的な総合科学である。地域政策論を通じて地域に暮らす市民を中心に、行政や企業、NPOなどステークホルダーの立場を理解するとともに、地域で活躍するために必要な知識や手法、行動力を育成する。地域で活躍するためには、まず、地域を知らなければならない。地域で起こる様々な出来事背景には地域政策がある。

- 【実務経験のある教員による授業科目】元 鳥取銀行勤務：地域経済を金融面で支える地方金融機関は、地域経済発展を目指す地方創生において、地方公共団体と各産業界・地域外企業との橋渡しの役割を中心に、深く地域政策に関わっている。それらの施策に携わった実務経験を踏まえて、事例などを紹介しつつ授業をおこなう。
- 【アクティブラーニング】グループ課題では、調査学習・グループワーク・フィールドワーク等をおこない、最終的にプレゼンテーション発表をおこなう。
- 【フィードバック】プレゼンテーションに対する講評などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1．地域政策の現代的課題を把握し、説明できる。
- 2．地域の抱える問題について理解し、現在取り組まれている政策についてデータに基づき説明できる。

評価方法

課題研究: 50% (到達目標2を評価)

定期テスト：50%(到達目標1を評価)

により成績を評価し、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

グループ学習・発表を予定している。グループによる共同研究をおこなうため、個人の無責任な行動がグループ全体の負担となることを肝に命じ、グループメンバー間のコミュニケーションを密に課題に取り組むこと。

不明点・疑問点・問題発生の際は、その度に教員に問い合わせること。

授業計画

回数	内容
第1回	国土形成計画と地域政策 課題グループ分け
第2回	人口減少時代の地域問題
第3回	地域システム変動のメカニズム
第4回	産業立地 1
第5回	産業立地 2
第6回	都市システム
第7回	人口移動と地域
第8回	産業集積の衰退と再生
第9回	地場産業の活性化

回数	内容
第10回	商業の再生戦略
第11回	新産業の創出
第12回	地方分権による地域再生
第13回	地域のグローバル化
第14回	課題研究発表
第15回	課題研究の総括

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 参考書や授業で配布されるレジュメや資料を良く読んで必ず予習・復習を行うこと。
- ・ グループ課題を出題する。課題の成果は講義で各グループに発表してもらうが、発表資料のデータ分析・資料作成は課外学習として取り組むこと。

教科書

地域政策 ベーシックプラス 山崎 朗 中央経済社 ISBN-10: 4502180211

参考書

地域再生の失敗学 飯田 泰之 光文社新書 ISBN-10: 4334039154

備考

年次	3 年
対象	22 ～ 201
単位数	2. 0 単位
担当教員	 芦田雅子

授業の概要

観光者の旅行経験が豊富になるにつれ、従来の回遊型の観光から地域の生活文化や人々との触れあいを楽しむ観光へと近年変化が見られる。以前から存在した観光資源以外の「モノ」や「コト」に注目して、新しい価値観をもつさまざまなツーリズムについて解説する。

到達目標

- 1、国内外の観光事象やツーリズムについて考察し、その効果を理解する。
- 2、様々なツーリズムを検証して、それらが生まれた背景と地域資源の関連性を理解する。
- 3、観光が地域にもたらす影響力を理解する。
- 4、現存する地域資源を、自らの視点で新しい価値観を付与して新しいツーリズムに繋げることができる。

評価方法

レポート50%（到達目標 1～3 を評価）

プレゼンテーション50%。（到達目標 4 を評価）

注意事項

- ・集中講義として開講する。（開講日時は相談の上決定する。計3日間。）

授業計画

一回目：地域の形成と観光政策について（倉敷市を事例として）、観光経済について、ツーリズムの事例＊以上座学
まとめのレポート作成

二回目：ツーリズム事例研究（グリーン、フィルム、アニメ）
学外実習をもって授業とする。（日時は決定次第連絡する。）

三回目：観光資源の活用について（倉敷市、全国、海外）
学生の研究調査発表二回目（各自のフィールドワークをもとに）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・倉敷市近辺を中心として、地域密着型・着地型観光の現場に出かけ、体験しながら学ぶ。
- ・各自でテーマ（自然、地域開発、産業観光、エコツーリズムなど）を決めて、地域のツーリズムを勘案する。
- ・地域の成り立ちを理解するために、積極的にフィールドワークをする。
- ・効果的なプレゼンテーションをするために、これまでの経験を活かした工夫をする。

教科書

その都度資料を配布する。授業外学習については前もって案内する。（日時については履修者の都合を聞いて決めます）

参考書

- ・「地域創造のためのマネージメント講座」吉兼 秀夫著 学芸出版社（ISBN-10: 4761526351）
- ・『体験交流型ツーリズムの手法―地域資源を活かす着地型観光』大社 充著 学芸出版社（ISBN-10: 4761512466）
- ・『新産業観光』須田 寛 著 交通新聞社（ISBN-10: 4330055090）

年次	2 年
対象	22 ～ 201
単位数	2．0 単位
担当教員	 赤木恒雄

授業の概要

この科目は地域づくりに関する知識および技能を育成する科目である。

1965年にラングランにより提唱された生涯教育論は、世界各国の教育を大きく変えた。我が国でも、余暇社会の到来とともに、生涯学習体系への移行が急速に進行しており、住民による学習活動、旅行、生涯学習に基づくまちづくりなどが積極的に展開されている。特に、人口の減少に伴いまちづくりの必要性が急速に高まっている。

そこで、講義では前半で生涯教育論の登場してくる背景、その理念及び学説、生涯学習論の基礎をなす成人の発達理論、それに基づく成人の学習プロセスなどについて概観し、生涯学習が何を目指しているかについて論ずる。また、後半では学習機会の保障という視点から、まちづくりに行政・企業・NPO・市民がどのように関わるべきか、事例を取り上げて論ずる。また、絶えずトピックなども取り上げたい。

到達目標

- 1．まちづくりに不可欠な生涯学習の考え方を理解し、説明できるようになる。
- 2．人間関係に必要な成人の発達特性を理解し、説明できるようになる。
- 3．成人の学習支援のあり方について理解し、説明できるようになる。
- 4．生涯学習に基づくまちづくりのあり方とその課題を理解し、説明できるようになる。

評価方法

授業終了前に実施する確認テスト30%（到達目標1, 2, 3, 4を評価）、レポート2課題30%（到達目標1, 3を評価）、定期試験40%（到達目標2, 4を評価）により成績を評価し、総合点60点以上を合格とする。

注意事項

- ・出席は毎回授業開始時に配布する出席用紙により、厳しくチェックする。遅刻は3回で1欠席とする。
- ・講義終了前に講義内容に関する確認テスト（出席用紙を使用）を行い、出席用紙を提出してもらう。次回の講義開始時に前回の確認テストについてコメントする。
- ・レポートの提出期限を厳守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	余暇・観光・まちづくりと生涯学習
第3回	生涯教育（学習）論の背景とその理論
第4回	生涯教育論の展開（UNESCO とOECD とでの違い）
第5回	生涯教育と生涯学習について（レポートIの課題の提示）
第6回	成人の発達課題論（エリクソン・ハヴィガースト）
第7回	成人の発達特性について
第8回	成人の学習方法・形態について
第9回	成人の学習の阻害要因（外的要因・内的要因）
第10回	成人の学習のあり方について（レポートIIの課題の提示）
第11回	成人の学習支援のあり方について

回数	内容
第12回	学習機会の保障（公的及び民間の学習施設）
第13回	まちづくりに向けて1（行政・企業のあり方）
第14回	まちづくりに向けて2（NPO・市民のあり方）
第15回	生涯学習を通しての観光・まちづくりのあり方　－まとめ－

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。

- ・必ず授業の予習・復習をすること。
- ・講義内容を理解・整理してもらうために、2つのレポートを課す。
- ・現在教育を含む社会が大きく変化しつつあるので、絶えずニュース・新聞等を通して生涯学習に関する動向及び人口動態などを把握しておくこと。

教科書

教科書は使用しない。

講義時にその都度資料を配布する。

参考書

- ・佐々木正治編『生涯学習社会の構築』福村出版、2007.
- ・佐々木正治編『21世紀の生涯学習』福村出版、2000.
- ・渡邊洋子『生涯学習時代の成人教育学 学習者支援へのアドヴォカシー』明石書店,2002.
- ・井口真『まちづくり・観光と地域文化の創造』学文社,2005.
- ・松尾匡他『市民参加のまちづくり』創成社,2005.
- ・米山秀隆『縮小まちづくり 成功と失敗の分かれ目』時事通信社 ,2018.
- ・講義中に適宜提示する。

備考

年次	3 年
対象	22 ～ 201
単位数	2．0 単位
担当教員	 芦田雅子

授業の概要

集中講義科目。観光ガイドという行為に焦点をあて、地域に存在する身近なモノやコトを伝えるための手法について解説する。日本全国にあるガイド活動をする団体に焦点をあて、活動にいたるまでの経緯・課題などについて理解を深める。また、身近にある観光資源を自分の言葉で他人に伝えるという行為を実践し、観光資源について再確認する。

到達目標

- 1、大学を中心とした倉敷市の地理・歴史・文化を自分の言葉で案内できる。
- 2、自分の出身地について、地域資源を自分の言葉で説明できる。
- 3、プレゼンテーション能力を身につける。

評価方法

課題とプレゼンテーション一回目50%（到達目標 1～3 を評価）

課題とプレゼンテーション二回目50%（到達目標 1～3 を評価）

注意事項

- ・集中講義として開講する。（開講日時は相談の上決定する。計3日間の予定。）
- ・留学生は日本語検定一級を保持することが望ましい。
- ・各自でフィールドワーク（大学キャンパス、地域内）をしたうえで授業に臨むこと。

授業計画

集中講義一回目：観光ガイド演習概要、おもてなしの心について、大学生のガイド活動について（以上座学）
キャンパス内のフィールドワーク、キャンパス案内のプレゼンテーション。

集中講義二回目：「私のふるさと」について、課題発表 1 回目。

総括

集中講義三回目：「倉敷市内の観光資源」について、課題発表 2 回目。

総括

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・積極的に地域をフィールドワークし、そこで得た経験や見つけたモノについて他人に伝える能力を養う。
- ・効果的なプレゼンテーションについて、各自で学習すること。
- ・地域資源を説明するために、新聞、メディアで取り上げられたニュースなどから幅広く知識を収集する。

教科書

使用しない。

参考書

- ・「瀬戸内海辞典」北川建次 著 南々社発行（ISBN-10: 493152463X）
- ・「岡山・備前・玉野の歴史」太田健一 著 郷土出版社（ISBN-10: 4863750641）
- ・「わしの眼は十年先が見える」城山三郎 著 新潮文庫（ISBN-10: 4101133255）

備考

会計学（22503）

前期

Accounting

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	2 年
対象	22 ～ 201
単位数	2. 0 単位
担当教員	 岡野憲治

授業の概要

会計は、現在の経済社会を生き抜くための知識です。家庭の会計は家計簿です。企業の会計は企業会計です。企業会計の知識があれば、会社の儲け（会計では利益といいます）を知ることが出来ます。利益が期待できるところに就職活動を集中することができます。就職しても会計の知識があれば、さまざまな部署に配属されても大丈夫です。この講義では、会計の仕組みを学習し、広範囲にわたる研究領域を理解します。具体的な企業の実例等にも取り組んで、就職してから役立つ会計を学びます。

到達目標

この講義によって、経済社会を生きるために必要な会計知識を習得し、理解できるようになります。会計学の領域の広さについて実感できます。理論と実務のそれぞれの内容を考慮した内容になっていますので、「会計は経済社会に必要な仕組み」であり、「会計が分かれば企業経営の実態が見える」ことを理解できるようになります。

評価方法

授業中に私語をしないで真剣に学習に取り組む姿勢、小テストと課題レポートの提出、定期試験などを総合的に評価します。
評価の割合は30%、40%、30%とします。

注意事項

新聞などの経済面に関心をもち、読んでいと、より深く学習内容を理解できます。
「真面目さ」という「性格力」を伸ばすために、欠席と遅刻はゼロにしたいですね。
授業内容の説明が、やや難解であるという授業アンケート結果に応じて、懇切丁寧な授業内容とするための工夫をしています。

授業計画

回数	内容
第1回	会計学の基礎を、会計情報の役割などの学習を通じて理解できます。
第2回	会計制度と社会の関係を理解できます。
第3回	財務諸表の種類とその内容を説明できるようになります。
第4回	貸借対照表は財政状態を表示するものであることが理解できます。
第5回	損益計算書は経営成績を表示するものであることが理解できます。
第6回	商品を仕入れて販売するスーパーマーケット、コンビニ、百貨店などの商企業の会計の知識を得ることが出来ます。
第7回	モノを作り出す生産設備の会計を学習します。減価償却という内容を説明できるようになります。車の購入者は、この知識があれば、有利になります。
第8回	資産、収益および費用などの会計において重要な内容を理解できます。
第9回	現金、預金、有価証券などの金融資産などの内容を説明できるようになります。
第10回	損益計算書をさらに本格的に勉強します。そして会計と企業経営の実態を説明できるようになります。
第11回	負債と資本そして純資産などの会計を理解することができます。
第12回	営業活動の会計を学習します。売上代金の回収とか収益などについて理解できます。
第13回	企業の儲かる仕組みの分析と利益構造を説明できるようになります。損益分岐点というわれわれの生活に役立つ知識を得ることが出来ます。

回数	内容
第14回	企業などの経営管理と会計の関係を説明できるようになります。家計簿を活用して、生活費を引き下げるための工夫を考え出す事が出来ます。
第15回	現代の会計を活用する仕事とその仕事に従事している多様な人達を理解する事が出来ます。自分の将来の仕事を選択するさいに役に立ちます。

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

教室の講義で単位を取得するだけでなく、「会計は意外と面白い、きちんと基礎を勉強し、さらに本格的に勉強したい」学生にとって、予習と復習の時間が必要となります。そのための資料などを用意しています。教科書とそれらの資料を活用して学習することにより、単位を取得することが容易になるだけでなく、会計の知識が深まります。

- ・前回の授業内容を確認するために、小テストによる質問と回答をお願いします。口頭での質疑応答もお願いします。
- ・自宅学習では、次回の授業内容を確認し、分からない事を確認しておいて下さい。
- ・課題レポートを提出していただき、理解度をさらに深めます。

教科書

谷 武幸 桜井久勝編著「1からの会計」中央経済社。2016年。ISBN 978-4-502-29980-3 C 3034

参考書

興津裕康・岡野憲治著「簿記原理－改訂第2版－」白桃書房。2009年。ISBN 978-4-561-45166-2 C 3034

備考

年次	3 年
対象	22 ～ 201
単位数	2. 0 単位
担当教員	 田原 静

授業の概要

一般的には「企業が顧客のニーズを捉え、自社製品の販売を促進するための手法」として捉えられることの多いマーケティング。その理論と実践は、社会や市場、消費者の行動の変化と呼応して時代と共に様々に変遷し、その焦点はかつてのモノ（製品や商品）中心からサービスや顧客との関係性、顧客の価値へと移って来ている。本講義では、主なマーケティングの理論の変遷を学ぶと共に、事例を通じ現代の企業や非営利組織において、実際のマーケティング活動がどのように行われているかを紹介する。

【アクティブ・ラーニング】グループごとでのディスカッションとプレゼンテーションを予定している。

【実務経験のある教員による授業科目】元 (株)ミックス 勤務：Webプランナー、ディレクターとして様々な企業の広報・販促活動をサポートしてきた経験に基づき、近年重要性が増しているWebマーケティング、Webとリアルの融合といった視点に重点を置き、実例を基に講義を行う。

到達目標

- マーケティングに関する基本的な概念や理論を理解し説明できる
- マーケティングの事例について、背景にある企業としての戦略やマーケターの意図、消費者の行動に与える影響について理論をベースに検討できる
- マーケティングに関する基本的な概念や理論に依拠しながら、自分なりのアイデアを考え発表できる

評価方法

期末試験の成績60%(到達目標1,2を評価)、グループでの発表内容(30%)(到達目標3を評価)及び授業態度(10%)によって評価する。

注意事項

- ・授業中は私語厳禁
- ・携帯電話・スマートフォンの使用は、講義に関係する事に限る
- ・授業回数の3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	マーケティング論のなりたち、基本的な概念
第3回	消費者の行動、マーケティング・リサーチ
第4回	マーケティング戦略
第5回	製品・サービス政策
第6回	価格政策
第7回	プロモーション政策
第8回	流通政策
第9回	マーケティング・ミックス
第10回	市場資源のマーケティング(ブランド・関係性マーケティング)
第11回	生産財マーケティング、サービス・マーケティング
第12回	デジタル・マーケティング

回数	内容
第13回	事例分析（発表・ディスカッション）
第14回	事例分析（発表・ディスカッション）
第15回	これまでの講義のまとめ・今後のマーケティング理論の展望について

授業外学習

- ・予習について：次回授業の該当箇所にあたる教科書の範囲を事前に読み，概要を把握しておくこと(各2時間)
- ・復習について：授業内容のノート整理，復習をしておくこと(各2時間)
- ・できれば新聞やネットのニュースメディアに目を通し，授業内容に関連する内容があれば興味を持って情報収集してみたい

教科書

黒岩健一郎・水越康介(2018)「マーケティングをつかむ 新版」有斐閣 978-4641177253

参考書

石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎(2013)「ゼミナール マーケティング入門 第2版」日本経済新聞出版社 978-4-532-13439-6

村松潤一(2015)「価値共創とマーケティング論」同文館出版 978-4-495-64741-4

朝野 熙彦(2016)「マーケティング・サイエンスのトップランナーたち～統計的予測とその実践事例」 978-4489022340

他，講義中に適宜紹介

備考

リーダーシップ論（22253）

後期

Leadership

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	3 年
対象	22 ～ 201
単位数	2. 0 単位
担当教員	 韓亮

授業の概要

経営者、マネジャー等は、リーダーとして、組織メンバーひとりひとりの能力を最大限に発揮させることが求められると同時に、創発的特性としての集団の力を活用することが求められる。人間の意識・行動特性、集団の中での人間行動を理解し、人を導く力を学ぶ。さらに、近年多様化したリスクをふまえ、リーダーシップ、意思決定、リスクマネジメントがどのように関係し必要とされるのか、あわせて学習する。

到達目標

- 1 経営リーダーシップの基本を理解できる

評価方法

受講態度：30%

小テスト：30%

期末テスト：40%

注意事項

特になし

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	リーダーシップ論の基礎
第3回	リーダーシップ方法論
第4回	モチベーション理論（上）
第5回	モチベーション理論（下）
第6回	組織コミットメント
第7回	キャリア（上）
第8回	キャリア（下）
第9回	集団討論会
第10回	組織学習
第11回	組織文化
第12回	組織公正（上）
第13回	組織公正（下）
第14回	人的資源管理
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 毎回の授業内容を確認し、次回へ向けた予習をおこなう。
- ・ 授業内容の理解度を確認するため、随時に小テストを行う。

教科書

特になし

参考書

必要に応じて授業中適宜に紹介する

備考

年次	2 年
対象	22 ～ 201
単位数	2．0 単位
担当教員	 村山公保

授業の概要

インターネットに接続できるパソコンとスマートフォンの普及により、インターネットは最も身近な情報ツールとなった。インターネットなしでは社会生活ができない時代になったともいえる。地域活動、日常生活、業務でインターネットを活用できるように、グループワーク、ディスカッションを通して学ぶ。

【アクティブラーニング】グループ・ワークとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1. 日頃から地域や日常、世界の問題を意識し、インターネットを活用する習慣を身につける。
2. インターネットと情報について、自分の考えを言葉で言える。
3. インターネットと情報について、自分の考えを文章で書ける。
4. インターネットと情報について、他人と討論できる。

評価方法

- ・定期試験100%(到達目標の1、2、3、4を評価)の重みで判定する。ただし、未提出のレポート(品質が低いレポートを含む)があったり、プレゼンテーションを行っていない回(品質が低いプレゼンテーションを含む)がある場合には、減点の対象となる。
- ・定期試験は「授業の振り返り」として実施する。内容は「自分が参加したチームの発表内容や他のチームの発表内容、課題への取り組みやグループワークでの貢献度、授業での発言」など、アピールポイントを論述するものとする。日頃の学修成果を試す試験となっているので、初回の授業から楽しみながら気合を入れて継続的に授業、および、時間外学習に取り組むこと。

注意事項

- ・授業外学習をしてこない者、私語をするもの、教員の話を受けないもの、教員の指示に従わないもの、指名されて発言しないもの、グループディスカッションに参加しないもの、授業に関係ないことにパソコンやスマートフォンを使うものは、この授業を受講する権利はない。教室内にいる場合には退出を命じる。
- ・他のグループのメンバーに大きな迷惑となるので、欠席をしないこと。止むを得ず欠席した場合には同じグループのメンバーと授業時間外に連絡を取って話し合いをすること。

授業計画

回数	内容
第1回	アクティブラーニングに関する説明と、各自の自己紹介
第2回	インターネットと情報発信
第3回	インターネットとショッピング
第4回	インターネットと旅行、観光
第5回	インターネットと人付き合い
第6回	インターネットと趣味、ホビー
第7回	インターネットと教育
第8回	インターネットとスポーツ

回数	内容
第9回	インターネットと芸術(美術、音楽)
第10回	インターネットと科学
第11回	インターネットと地域
第12回	インターネットと日本・世界
第13回	インターネットと若者
第14回	インターネットと情報弱者
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

時間外に自己の能力を高める訓練をすることが大切である。その成果を記録し、定期試験でアピールできるようにする。

- ・事前に教科書を読み、不明点や疑問点を明確にしておくこと。
- ・個人課題やグループ課題を出題するので、必ずやってくること。
- ・授業時間内に作業が終わらなかった場合は、授業時間外に作業をして、終わらせてくること。
- ・能動的な学び、および、グループワークのために授業時間外に5号館5519共同実験室のパソコンを使用できる。

教科書

小木曽健著、「11歳からの正しく怖がるインターネット: 大人もネットで失敗しなくなる本」、晶文社、2017、978-4-794-96955-2

参考書

村山公保著、「基礎からわかるTCP/IP ネットワークコンピューティング入門第3版」、オーム社、2015、978-4-274-05073-2

備考

年次	2 年
対象	22 ～ 20 l
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤 ブラダンスジット

授業の概要

科学技術の中で特に情報科学分野の事項を中心にして、広く科学技術についての理解を得ることを目的とする。
実際にコンピュータを利用し、HTML5を使用したWeb文書を作る作業を通して、情報発信について視覚的・体験的に学ぶ。

【I C Tを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る。更に、それを使って講義に関する電子資料、学生への課題の提示、また学生による課題提出などを統合的に管理する。

到達目標

- 1 構造化文書制作におけるHTML5の機能について理解が深まる。
- 2 自ら、We b文書を作成することができる。
- 3 ウェブにおける情報発信に関する最新技術にていて理解できる。
- 4 ウェブデザインに必要な技能を身に付ける。

評価方法

授業への取り組み(50%)、レポートやプレゼン(50%)で総合的に判断する。

注意事項

遅刻は認めない。ただし、延着証明書などを提出した場合はこの限りではない。

授業計画

回数	内容
第1回	情報発信とウェブサイトの役割
第2回	ウェブサイトにおける構造化文書の必要性について
第3回	HTML概要
第4回	XMLについて
第5回	HTML5による文書構造の厳密化
第6回	Canvas要素を利用したWebアプリの作成
第7回	SVGと図形描画
第8回	CSS3を適用したWeb表現について
第9回	Webページに外部アプリの組み込む
第10回	スマートフォン／タブレットに対応したWebデザイン
第11回	実例演習：アニメーションの基本
第12回	実例演習：動くコンテンツ
第13回	実例演習：アニメーションのテクニック
第14回	実例演習：サウンドを使う
第15回	実例演習：ビデオを使う

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間

- ・不十分な結果に対して、次の実験時に改良案で望む。
- ・レポートの作成、プレゼン資料の作成を行う。

教科書

教材を配布する。

参考書

適宜指示する。

備考

情報ネットワーク実験（22357）

後期

Experiment in Information Network

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	3 年
対象	22 ～ 201
単位数	1． 0 単位
担当教員	 村山公保

授業の概要

実務で必要となる情報通信ネットワークに関する知識・技術を体得するために、実機の操作による実験・実習を通じてネットワークを理解する。ネットワークに接続する機器の設定方法や、障害発生時の対処法、日常的なセキュリティ対策の方法についても学習する。

UNIXシステムの構築、コマンドを理解する。

機材としては、Linuxが動作するRaspberry Pi 3を使用して、sshサーバ構築、Webサーバ構築、WiFiブロードバンドルータ構築(DHCP、NAT)を行う。

【アクティブラーニング】問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1. 情報ネットワークの基礎知識（IPアドレス、MACアドレス、DHCP、NAT)を理解する。
2. Webサーバ、ブロードバンドルータの役割を理解する。
3. Linuxによるシステム構築を体験する。

評価方法

授業への取り組み50%(到達目標の1、2、3の評価)、および、レポート50%(到達目標1、2、3の評価)の重みで判定する。

注意事項

- ・5519実験室で行う。
- ・休み時間等に利用できるように機材は5519実験室に設置する。

授業計画

回数	内容
第1回	講義のすすめかた、器材の説明
第2回	OSのインストールとシステムの構築
第3回	遠隔ログインの設定(ssh)
第4回	UNIXコマンドの基礎
第5回	ネットワークコマンドの活用(ifconfig、ping、traceroute)
第6回	Webサーバ構築
第7回	Webコンテンツ作成
第8回	IoTの実験
第9回	作成したWebサーバーに関するプレゼンテーション
第10回	ブロードバンドルータ構築
第11回	Wi-Fiと、Wi-fiアクセスポイントの設定
第12回	DHCPの意味と、DHCPサーバーの設定

回数	内容
第13回	NATの意味と、NATの設定
第14回	作成したブロードバンドルータに関するプレゼンテーション
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間

- ・授業中に終わらなかったことを、次の週までにやってくる。
- ・レポートの作成、プレゼン資料の作成を行う。

教科書

吉田 顕一著、「Raspberry Pi + AI 電子工作超入門」、ソーテック社、2019、978-4-800-71245-5

参考書

村山公保著、「基礎からわかるTCP/IP ネットワークコンピューティング入門第3版」、オーム社、2015、978-4-274-05073-2

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄著、「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

備考

データ管理と情報検索（22555）

後期

Data Management and IR

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	2 年
対象	22 ～ 201
単位数	2. 0 単位
担当教員	 ブラダンスジット

授業の概要

リレーショナルデータベースシステムの基本的な概念、構造及び機能、リレーショナル代数、問い合わせ言語いわゆる情報検索や検索システムの設計、管理など基本事項について学ぶ。あわせて、企業等が保有するデータの安全管理についても学ぶ。

【アクティブラーニング】グループ・ワークとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【I C Tを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る。更に、それを使って講義に関する電子資料、学生への課題の提示、また学生による課題提出などを統合的に管理する。

到達目標

- 1 データベース管理システムの機能を理解し、データ管理の必要性について説明できる。
- 2 S Q Lを使ってデータベースを操作することができる。
- 3 データベースシステムを一から構築するために必要とする知識を身に付ける。
- 4 データベースシステム開発における概念設計を自ら行うことができる。

評価方法

授業に取り組む態度・姿勢、中間発表、定期試験等により総合的に評価する。評価の比率は、それぞれ10%、50%、40%を基準とする。

注意事項

論理的思考が要求される。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス・Google Classroom へ登録手続き
第2回	データベース管理システムの基本的な概念、データベースの必要性・機能など
第3回	データベースの歴史、データモデル、ネットワークモデル、階層型モデルなど
第4回	リレーショナルモデル・ドメイン、構造記述法など
第5回	データベースシステム設計論
第6回	概念的な設計・E R図
第7回	中間発表
第8回	リレーショナルモデルにおける整合性制約・ドメイン、キー制約、参照整合性制約
第9回	リレーショナル代数・集合演算・リレーショナル演算
第10回	リレーショナルデータベース操作言語・SQL
第11回	リレーショナルデータベースに対する複雑な問い合わせ
第12回	SQL・集約機能

回数	内容
第13回	データ漏れ防止・データの安全性
第14回	障害時データ保護
第15回	まとめ

授業外学習

回数	内容
第1回	授業計画に示した内容について事前に概略をつかんでおくこと。(4時間)
第2回	身の回りに使われているデータベースシステムについて調べること。(4時間)
第3回	自らデータベースシステムを設計するために、テーマを考えること。(4時間)
第4回	グループによるプロジェクト実施のために、グループメンバーを決めること。また、グループメンバー同士でテーマについて議論すること。(4時間)
第5回	データベースプロジェクトの最終案を作成すること。(4時間)
第6回	グループプロジェクトにおけるデータベース設計について概念的な図を作成すること。(4時間)
第7回	作成した概念的図による中間発表用の資料を作成すること。(4時間)
第8回	概念設計に基づいたデータベースシステムの論理的な構成を考えること。(4時間)
第9回	自ら設計したデータベースに対して単純な問い合わせを考えること。(4時間)
第10回	自ら設計したデータベースに対して複雑な問い合わせを考えること。(4時間)
第11回	大量のデータを集約した形の問い合わせを考えること。(4時間)
第12回	データベースシステムにおける情報漏えの問題について調べること。(4時間)
第13回	データベースシステムにおける安全性について考えること。(4時間)
第14回	障害のときにデータの回復について考えること。(4時間)
第15回	これまでの授業内容についての配布した資料や授業ノートなどをもとに総復習して授業にのぞむこと。(4時間)

教科書

使用しない。(適宜資料をPDFで配布、あるいはプロジェクター投影またはダウンロード可能なデータを明示する)

参考書

必要に応じて指示する。

備考

年次	3 年
対象	22 ～ 20 I
単位数	1． 0 単位
担当教員	 ブラダンスジット

授業の概要

情報科学のあらゆる分野において、本で学ぶだけでは真の理解は得られない。本で学んだ事実を実際にコンピュータで実験する、あるいはコンピュータ上に実現することを通じて初めて真の理解が得られる。システム構築に関連する題材を大枠で捉えると、与えられたデータから目的の情報を探索・構築するための手順、即ちアルゴリズムの考案と、それを具体的言語を使用してプログラミングする。

【I C Tを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る。更に、それを使って講義に関する電子資料、学生への課題の提示、また学生による課題提出などを統合的に管理する。

到達目標

- 1 プログラムの成り立つアルゴリズムと構成が理解できる。
- 2 実際の現象を例題に取り入れ、結果を出して評価することができる。
- 3 データベースにおける標準問い合わせ言語について理解が深まる。

評価方法

授業への取り組み(50%)、レポートやプレゼン(50%)で総合的に判断する。

注意事項

各自のノートパソコンを持参のこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	データベース管理システムソフト（PostgreSQL ）の紹介
第3回	データベースの作成・データベーススキーマの修正
第4回	データの修正（更新・削除・挿入）
第5回	単純な問い合わせ
第6回	複雑な問い合わせ
第7回	まとめ（データベース基本）
第8回	プログラミングの基本知識
第9回	整列アルゴリズム・プログラム作成
第10回	プログラムからデータベースへのアクセス
第11回	データベースプロジェクト
第12回	概念データモデル作成
第13回	概念データモデルから論理モデルへの変換
第14回	プロジェクト発表（１）
第15回	プロジェクト発表（２）

授業外学習

- 学習時間の目安：合計15時間
- ・不十分な結果に対して、次の実験時に改良案で望む。
 - ・レポートの作成、プレゼン資料の作成を行う。

教科書

使用しない

参考書

実験テキスト・資料配布

備考

経営学概論（22553）

後期

Introduction to Business Administration

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	1 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 徳田美智

授業の概要

企業経営に関する基礎的な知識を修得し、経営学の幅広い一般的な理解を行い、企業経営の全体的な概要の把握を目的とする。
経営学とはどのような学問か、またそれがどのように生成・発展してきたのか。その研究対象である企業は社会でどのような役割があり、またいかなる形態があるか。さらに、厳しい競争の中で長期的に維持・発展するため企業の経営者はどのような役割を果たしているのか、講義を通して理解を深める。また、企業の不祥事も頻発しており、危機管理の重要性が高まっているため、企業統制などと共に学習する。

【アクティブラーニング】事例調査を取り入れる

【フィードバック】課題（小テスト、レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1．経営学の歴史と基本的な知識を習得する
- 2．企業活動に関心を高める
- 3．企業活動に関するニュースを見て、その背景や事象が理解できるようになる

評価方法

授業に取り組む姿勢(小テスト等) 2 0 %（到達目標1を評価）、課題レポート 3 0 %（到達目標2を評価）、定期試験 5 0 %（到達目標3を評価）。

授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、単位を認定しない。

注意事項

【講義中のスマホ・タブレットの使用について】

講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	企業経営の全体像
第2回	経営学とはどのような学問か
第3回	企業と会社の制度的な特徴
第4回	コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任
第5回	経営理念、目的と戦略①
第6回	経営理念、目的と戦略②
第7回	企業戦略
第8回	競争戦略と事業システム
第9回	組織構造
第10回	キャリアデザイン
第11回	組織文化
第12回	経営学の拡がり 1（病院組織のマネジメント）

回数	内容
第13回	経営学の拡がり2（ファミリービジネスとは）
第14回	経営学の拡がり3（公共経営：経営学×行政組織）
第15回	ふりかえり・まとめ

授業外学習

学習時間の目安：60時間

- 1）教科書等の復習、ノート整理を行う。（毎週1．5時間程度）
- 2）企業経営に関する新聞やニュースを日々チェックし、さらなる理解と関心を高める。（毎週2．5時間程度）

教科書

藤田誠著『経営学入門』中央経済社（2015）ISBN：978-4502133916

参考書

必要に応じて、適宜紹介する

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 18 l
単位数	2. 0 単位
担当教員	 岡野憲治

授業の概要

簿記は、現在の経済社会を生き抜くために必要な知識です。たとえば、家庭の簿記は、家計簿です。企業の簿記は、株主総会に提出される財務諸表である損益計算書と貸借対照表を作成する基礎となります。この講義では、簿記の基本的考え方と財務諸表に関する基礎的な知識を学ぶ事が出来ます。さらに、この講義では、企業の経営活動を表す財務諸表を作成するまでの簿記の内容について理解できます。日本商工会議所の簿記検定試験に合格できるように学びますので、就職活動を有利に進めることが出来ます。

到達目標

- 3つの到達目標を達成することが出来ます。そして就職活動を有利に進めることが出来ます。
- 1 まず、簿記の基礎的な知識と全体の内容を学ぶことが出来ます。
 - 2 次に、新聞などの経済面に出てくる「簿記と会計に関する基礎的な知識」を理解する事が出来ます。
 - 3 そして日本商工会議所の簿記検定試験の3級を受験できる能力を身に付ける事が出来ます。

評価方法

授業内容についての討論と議論などに真剣に取り組む姿勢、課題レポートの提出、定期試験などを総合的に判断して、評価します。評価の割合は、それぞれ30%、30%、40%とします。

注意事項

「真面目さ」という「性格力」を伸ばすために、遅刻と欠席はゼロにしたいですね。私語を交わしたり、スマホを操作したりなどは、控えていただきたいですね。

授業計画

授業計画

- 第1回 簿記の基礎である「取引の8要素と勘定記入の原理」を理解する事が出来ます。
- 第2回 資産である現金・預金・有価証券などの取引を理解する事が出来ます。
- 第3回 商品を仕入れて販売するという商品売買取引を理解する事が出来ます。
- 第4回 売掛金と買掛金などの債権と債務の取引を理解することが出来ます。
- 第5回 受取手形と支払手形などの手形取引を理解する事が出来ます。
- 第6回 備品と建物などの固定資産取引と減価償却の内容を理解することが出来ます。
- 第7回 その他の資産といわれる無形固定資産と投資などの取引を理解することが出来ます。
- 第8回 企業の当期純利益の計算方法と決算を理解することが出来ます。
- 第9回 現代の代表的な企業である株式会社の簿記を中心に学習することが出来ます。
- 第10回 企業の資金調達の方法の1つである社債について理解する事が出来ます。
- 第11回 財務諸表の損益計算書の作成方法を学習することが出来ます。
- 第12回 財務諸表の貸借対照表の作成方法を学習することが出来ます。
- 第13回 精算表の内容とその作成方法を学習することが出来ます。
- 第14回 日本商工会議所の簿記検定試験を受験できる準備をすることが出来ます。
- 第15回 日本商工会議所の簿記検定試験の3級の内容を理解することが出来ます。

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

簿記の学習には、演習前に教科書をあらかじめ読んでおく予習と問題点を解決する復習が必要です。これらの学習に取り組むことによって、簿記の実力をつけることが出来ます。教科書の演習問題を解いてもらいます。

自分で解けない、理解できないことは、教室において、皆で議論することができます。
解答した演習問題を提出することで、授業外学習の証拠として下さい。

教科書

興津裕康・岡野憲治著『簿記原理－改訂第2版』白桃書房。2009年。ISBN 978-4-561-45166-2 C 3034

参考書

谷 武幸 桜井 久勝編著『1からの会計』中央経済社。2016年。ISBN 978-4-502-29980-3 C 3034

備考

簿記論演習（22505）

前期

Bookkeeping Exercise

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	2 年
対象	22 ～ 201
単位数	2．0 単位
担当教員	 岡野憲治

授業の概要

簿記の基本的な知識を演習を実施して理解します。演習は、講義による説明と練習問題を解答することから構成されています。それによって、経営成績を表す損益計算書と財政状態を表す貸借対照表などを作成する能力が養われます。

到達目標

すでに会計原理・会计学、簿記論などを履修している学生には、企業経営と会計情報の関係を深く理解できるように演習を実施します。さらに、初めて簿記を学ぶ初学者にも、簿記の基本的な考えを理解できるように、演習を実施いたします。簿記の基礎的な知識を学習し、その知識を活用して、就職活動を有利に進めることも目標です。

評価方法

演習などに真剣に取り組む姿勢、演習レポートの提出、定期試験などを総合的に判断して、評価します。評価の割合は、それぞれ30%、30%、40%とします。

注意事項

遅刻と欠席はゼロにしたいですね。私語とスマホの操作なども控えていきたいですね。

授業計画

- 第1回 簿記の基本的な考えを理解します。企業経営と会計情報の中心である財務諸表の関係を理解できるように指導します。新聞などに出ている会計情報などを学生諸君と議論します。
- 第2回 簿記を計算構造の側面から学習します。財産法と貸借対照表、損益法と損益計算書の関係を、計算例の演習などを利用して理解します。
- 第3回 簿記の基本的な内容は、仕訳帳と総勘定元帳などの帳簿に記入し、帳簿を締め切り、決算をすることです。仕訳の方法と勘定記入の原理を簡単な例示で学習します。
- 第4回 現金・預金取引の仕訳と勘定記入の方法を、演習問題を解くことによって学習します。
- 第5回 有価証券の内容の理解、その取得、売却などの取引の記帳方法を学習します。
- 第6回 商品売買取引とその記帳方法を計算練習などによって学習します。特に商品勘定の3分法による記帳方法を例示などを利用して理解します。
- 第7回 債権である売掛金と債務である買掛金の仕訳を学習します。また、この取引に関連する貸倒損失と貸倒引当金の内容も理解します。
- 第8回 約束手形と為替手形の内容と受取手形勘定および支払手形勘定の記帳方法を学習します。
- 第9回 建物などの有形固定資産の取得と減価償却について学習します。ここでは、減価償却費の計算方法を演習問題を解くことによって理解します。
- 第10回 損益取引の記帳処理を学習します。特に、商品売買取引における売上原価と商品売買益の計算を演習問題を解くことによって学習者の理解を容易にします。
- 第11回 決算について学習します。その内容と基本的な考えを学習します。
- 第12回 決算に必要な残高試算表の構成とその作成方法を演習問題を解くことによって理解します。
- 第13回 決算日に処理する決算整理事項とその仕訳、勘定の記入などを学習します。演習問題を解くことによって理解します。
- 第14回 決算日に作成する損益計算書と貸借対照表を演習問題を解くことによって理解します。
- 第15回 企業経営と簿記によって作成される財務諸表の関係を復習します。

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

簿記の演習には、演習前に教科書をあらかじめ読んでおく予習勉強と解けなかった問題などを解決する復讐が大切です。教科書の演習問題を解きながら、簿記の実力をつけましょう。自分で解けない、理解できない問題は、教室において解決できますので、安心して下さい。

教科書

興津裕康・岡野憲治著『簿記原理 改訂第2版』白桃書房。2009年。ISBN 9 7 8 - 4 - 5 6 1 - 4 5 1 6 6 - 2 C 3034

参考書

谷 武幸・桜井久勝編著『1からの会計』中央経済社。2016年。ISBN 9 7 8 - 4 - 5 0 2 - 2 9 9 8 0 - 3 C 3034

備考

経済学原論 I（マクロ）（22452）

後期

Principles of Economics (Macro)

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	2 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	山中高光

授業の概要

マクロ経済学の基礎的な理論体系を学ぶ。国民経済の活動水準の測定およびGDPの決定理論、貨幣市場とGDP及び利子率、総需要項目である消費と投資、財市場と資産市場の同時均衡、この同時均衡モデルに基づく財政政策、金融政策の効果、期待を導入したインフレーションと失業の分析、国際収支と為替レートの問題、開放経済下の財政政策と金融政策の効果、経済成長の理論を概説する。学生がマクロ経済学の基本的な考え方を習得し現実の政策への適用を図ることができるようにする。

到達目標

学生が、マクロ経済学の基本的な考え方を習得し、現実の経済問題の把握と政策への適用を考察できるようになる。

評価方法

平常点15%、期末試験85%を基準として総合的に評価する。

注意事項

無用の授業中の私語とスマートフォン（携帯電話）などの使用を一切禁止する。

また、授業中に意見を求めたり質問を受け付けたりしていく。

授業計画

- 1週目：マクロ経済学とは一大不況、世界恐慌、ケインズ、ケインジアン、新古典派、新自由主義、世界金融危機
- 2週目：GDPとは何か（1）—国民経済計算、GDP、三面等価、名目値と実質値、物価
- 3週目：GDPとは何か（2）—日本のGDPの推移、景気循環、戦後日本経済の歩み
- 4週目：消費と貯蓄—ケインズの消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約と消費、日本の家計の省と貯蓄
- 5週目：投資—設備投資、資本の限界効率、投資理論、在庫投資
- 6週目：貨幣と金融—貨幣の機能、貨幣の種類、決済、金融、銀行、中央銀行
- 7週目：貨幣の需要と供給—貨幣の需要動機、貨幣需要関数、ハイパワードマネー、マネタリーベース、貨幣の供給、利子率の決定、金融政策
- 8週目：GDPの決定理論—有効需要の原理、乗数理論、財市場の均衡、乗数、財政政策
- 9週目：IS—LM分析—財市場と資産市場の同時均衡、IS曲線、IS曲線、財政政策、ケインジアン、マネタリスト、ルールか裁量か、新古典派のマクロ経済学、ニュー・ケインジアンの理論、非伝統的金融政策
- 10週目：財政赤字と国債—中立命題、租税、政府支出、日本、の財政収支、高齢化
- 11週目：インフレーションとデフレーション—総供給関数、総需要関数、AD-AS分析、インフレーション、デフレーション
- 12週目：失業—失業率、フィリップス曲線、自然失業率仮説、インフレ期待、
- 13週目：国際マクロ経済学（1）—国際収支統計、為替レート、国際通貨制度、為替レートの決定、
- 14週目：国際マクロ経済学（2）—国際マクロ経済学、マンデル＝フレミング・モデル
- 15週目：経済成長—経済成長、成長会計、ハロッド＝ドーマーモデル、新古典派成長モデル、内生的成長モデル、経済成長と所得分配

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

事前に資料を配布するので予習を心掛けてもらいたい。また練習問題があるので基礎的な復習に役立てること。授業中でもできるだけ取り上げるが、まずは日々の経済ニュースや経済データに接し、それらについて自分の意見を持つことが望ましい。

教科書

福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門第5版』有斐閣、2016年。ISBN 978-4-641-22066-9。

参考書

齊藤 誠・岩本 康志・太田 聡一・柴田 章久『マクロ経済学（新盤）』有斐閣、2016年。ISBN 978-4-641-05384-7
吉川洋『マクロ経済学第4版』岩波書店、2017年。ISBN: 978-4000266567

備考

年次	2 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 権純珍

授業の概要

ミクロ経済学の基礎的な理論体系を学ぶ。経済を捉える枠組み、需要と供給やその弾力性、需要曲線の背景にある家計の行動、供給曲線の背景にある企業の行動、完全競争市場における価格決定メカニズムと価格による需給の調整、資源配分の効率性と政府の役割を説明する。さらに、不完全競争市場、そして市場の失敗、特に外部性、公共財、不完全情報性について政府の役割とともに説明する。基礎的なゲーム理論を概説する。学生が市場経済の機能と限界を習得し、現実の経済問題に向けて適用できるようにする。

到達目標

- 1 ミクロ経済学の理論的体系を理解できる。
- 2 消費者・生産者の最適化行動についての分析能力を習得する。
- 3 市場経済の機能と限界を習得し、現実の経済問題に適用できる。

評価方法

・授業に取り組む姿勢(20%)、課題提出や中間テスト(30%)、定期試験(50%)等で総合的に評価する。

注意事項

- ・欠席は欠格要件である。
- ・私語は厳禁である。
- ・学習内容を十分に予習及び復習することが必要である。
- ・授業内容に関連した自習レポートは評価する。
- ・授業内容に関連する質問や意見は歓迎する。

授業計画

回数	内容
第1回	ミクロ経済学の概要(講義の概略及び進め方、ミクロ経済学とは何か。)
第2回	需要(需要法則、需要曲線、需要曲線のシフト要因)
第3回	供給(供給法則、供給曲線、供給曲線のシフト要因)
第4回	市場均衡(均衡需給量・均衡価格、余剰分析)
第5回	弾力性(需要の価格弾力性、供給の価格弾力性、所得の需要弾力性)
第6回	消費者行動理論(1)(効用の概念、効用関数、限界効用)
第7回	消費者行動理論(2)(無差別曲線、限界代替率)
第8回	中間テスト
第9回	消費者行動理論(3)(予算制約線、予算制約線のシフト要因、最適消費者行動)
第10回	生産者行動理論(1)(生産の概念、生産関数、限界生産性)
第11回	生産者行動理論(2)(等量曲線)
第12回	生産者行動理論(3)(等費曲線、限界費用、利潤最大化)
第13回	完全競争市場(完全競争市場の定義、資源配分の効率性)
第14回	不完全競争市場(不完全市場の定義、寡占市場とゲーム理論)

回数	内容
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・新聞等で経済・経営、金融、株価・為替レート・物価指数等の関連記事に目を通す等の予習と、学習した授業内容を復習すること。

教科書

- ・特に指定しない。
- ・必要に応じてプリント(関連文献および統計資料等)を配布する。

参考書

- ・参考書等は必要に応じて随時、授業中に指示する

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 201
単位数	2. 0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

民法は私法分野の最も基礎となる法律であり、学習の手順としては民法の内容を理解した上で、会社法（商法を含む）、行政法を学ぶことになる。この講義で理解することは、法人設立の意義や物権・債権の区別を中心とする財産権の性質、時効、担保、不法行為などの基礎的な事項である。

到達目標

- 1) 物権について理解し、説明出来る。
- 2) 債権について理解し、説明出来る。
- 3) 契約について理解し、説明出来る。
- 4) 不法行為について理解し、説明出来る。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合30%

時事問題への感度（毎回の感想）：評価割合30%

論述：評価割合40%

* 合格基準は60点。

注意事項

特になし。

授業計画

第1回 民法の進め方について説明する。教科書の進度と時事問題の取り上げ方、その割合について説明する。

第2回 民法は私法・民事法の分野に属しているが、法人や財産権についての基本原則を提供しており、商事法を学ぶための必須基本分野ともなっている。私法分野の基礎としての民法の枠組みを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第3回 権利主体について学ぶ。法人が「人」であることを理解出来るようになる。会社が法人の一形態であることも学ぶ。関連する時事問題も取り上げる。

第4回 財産権の種類について学ぶ。物権と債権の違いを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第5回 所有権と占有権について学ぶ。物権の代表としての所有権の取得について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第6回 担保物権について学ぶ。物権を物的保証として提供する仕組みについて理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第7回 売買契約の特徴について学ぶ。合意による債権取得の仕組みについて理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第8回 貸借契約の仕組みについて学ぶ。貸借によって占有を相手方に移すが所有は移らないという仕組みを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第9回 不法行為について学ぶ。合意はないにも拘らず相手方に債権が発生する仕組みを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第10回 債務不履行について学ぶ。契約違反とは債務を履行しないこと、すなわち債務不履行であることを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第11回 融資と担保について学ぶ。商法・会社法への橋渡しとして、銀行による融資（民法上は金銭消費貸借契約）の仕組みと担保の設定方法について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第12回 物的担保と人的担保について学ぶ。実務上発達している種々の担保設定方法について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第13回 強制執行について学ぶ。債務不履行が生じている場合の強制執行の方法について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第14回 少額訴訟について学ぶ。簡易かつ迅速な方法で勝訴判決を得られる少額訴訟の手続について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第15回 民法について知ること商事法の基礎について学ぶことが出来た。時事問題を毎回取り上げているので、最終回にこれを整理して理解を深める。

授業外学習

第1回 教科書のテーマだけでなく、時事問題も多く取り上げて補足する。民法を学ぶ場合には、世の中の動きに敏感になることが大切であると理解する。（標準学習時間120分）

第2回 予習：民事法と刑事法の違いについて予め自分で調べることが大切である。復習：民法の基本構造を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第3回 予習：法人について予め自分で調べることが大切である。復習：権利主体とは法的に何を意味しているのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第4回 予習：財産権の種類について予め自分で調べることが大切である。復習：物権と債権の違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第5回 予習：物権について予め自分で調べることが大切である。復習：所有権の性質を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第6回 予習：担保物権について予め自分で調べることが大切である。復習：質権や抵当権について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第7回 予習：債権について予め自分で調べることが大切である。

復習：売買契約の際に債権がどのように発生し、それらが互にどういう相関関係になるのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第8回 予習：賃貸借や消費貸借について予め自分で調べることが大切である。復習：売買契約と貸借契約との違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第9回 予習：事故が発生した際の責任の所在について予め自分で調べることが大切である。復習：不法行為の形態と債権の発生するメカニズムを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第10回 予習：契約違反について予め自分で調べることが大切である。復習：債務不履行とは債権/債務関係がどうなることを言うのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第11回 予習：銀行融資と担保権設定について予め自分で調べることが大切である。復習：金銭消費貸借契約の際には担保設定することが通常であることを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第12回 予習：担保権の設定について予め自分で調べることが大切である。復習：実務上で発達してきた種々の担保設定方法について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第13回 予習：強制執行について予め自分で調べることが大切である。復習：強制執行の仕組みについて理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第14回 予習：少額訴訟について予め自分で調べることが大切である。復習：判決での勝訴の獲得とその後の強制執行の手続について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第15回 予習：これまでのまとめノートを作るようにをする。復習：教科書のテーマをおさらいし、時事問題との繋がりを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

* 標準学習時間の合計：合計60時間

教科書

河野正英『商取引法講義（改訂版）』大学教育出版（ISBN: 978-4-86429-414-0）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 馬場始三

授業の概要

情報ネットワーク技術の基礎について学習する科目である。本科目ではコンピュータネットワークとしてインターネットを取り上げ、今日のネットワーク社会を生きていく上で必要とされるインターネットの仕組みの基礎知識について幅広く学ぶ。また、インターネット上の様々なサービスをしっかりと活用できる教養を身につける。

【アクティブラーニング】課題学習「インターネットの光と陰」で、課題学習のプレゼンテーションとディスカッションを取り入れている。

【フィードバック】ミニレポートへのコメントや、課題学習のプレゼンテーションやディスカッションに対する講評などといった指導を行う。

到達目標

- 1 プロトコルについて説明できる
- 2 4 階層モデルと各層の役割について説明できる
- 3 授業で利用するパソコンのIPアドレス、MACアドレスを調べることができる
- 4 コンピュータネットワークのリスクを理解し、セキュリティの重要性について具体的に説明できる

評価方法

授業に取り組む態度・姿勢（40％）、ミニレポート（20％）、定期試験（40％）に基づいて総合的に評価する。
到達目標 3 は授業に取り組む態度・姿勢とミニレポートより、到達目標 1、2 と 4 はミニレポートと定期試験により評価する。
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・教科に関する科目（高等学校 情報）である
- ・教室に備えられたパソコンを使いながら授業内容を補足する演習を行う

授業計画

回数	内容
第1回	コンピュータネットワークとは
第2回	プロトコルと階層モデル
第3回	アプリケーション層（1）： HTTP
第4回	アプリケーション層（2）： HTTP以外
第5回	トランスポート層（1）： TCPとポート番号
第6回	トランスポート層（2）： TCPのしくみ
第7回	トランスポート層（3）： UDP
第8回	インターネット層（1）： IPアドレス
第9回	インターネット層（2）： クラスとサブネット
第10回	インターネット層（3）： ルーターとルーティング
第11回	インターネット層（4）： ドメイン名とDNS

回数	内容
第12回	課題学習：「インターネットの光と陰」
第13回	ネットワークインターフェース層（1）：イーサネット
第14回	ネットワークインターフェース層（2）：無線LAN
第15回	インターネットのセキュリティと今後

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- ・ 次回の授業内容を確認し、その範囲の教科書をあらかじめ読んでおくこと
- ・ 授業時間に学んだ教科書のパートを読んで復習しておくこと
- ・ 授業時の内容を問うミニレポートを 6 回程度出題する

教科書

スラスラわかるネットワーク&TCP/IPのきほん

ISBN978-4-7973-9607-2

参考書

Google Classroom を通じて、資料を適宜紹介する。

備考

情報と職業（22502）

前期

Information and Occupations

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	2 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2． 0 単位
担当教員	大西 莊一

授業の概要

現在の情報化社会において、コンピュータや通信ネットワークが社会や企業、行政（政府・地方自治体）でどのように活用され、職業の形態、職業観がどのように変化してきたのかを学習する。また、情報と職業のかかわりを理解し、情報にかかわる職業人としての資質・能力を身につける。

到達目標

情報にかかわる職業人としての資質・能力を取得することを授業の目標とする。

評価方法

毎回の小レポート（20％）と最終試験（80％）により評価する。

注意事項

教科に関する科目（高等学校 情報）。

授業計画

回数	内容
第1回	情報社会の光と影
第2回	ICT技術者育成の重要性
第3回	企業経営とICTの歴史
第4回	インターネットのインパクト1－インターネットの応用
第5回	インターネットのインパクト2－インターネットによる社会変革
第6回	企業でのICT活用動向
第7回	ICT推進組織
第8回	ICT投資のコストパフォーマンス
第9回	ICTによる勤務形態の変化
第10回	ICT技術者の定義と資格
第11回	情報サービス業について
第12回	ICT技術者のイメージと実像
第13回	ICT技術者に求められる資質
第14回	高校での情報教育
第15回	大学での情報教育

授業外学習

レポート課題の出題により授業外で自己学習する必要が生じることがある。講義の内容理解を確認するために、毎回小レポートを実施する。予習・復習の具体的な内容や方法については授業中に詳しく指示する。

教科書

情報と職業／小暮 仁 著／日科技連出版社／9784817192523

参考書

授業中に適宜指示する。

備考

年次	3 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 下尾邦之  柳田宏治

授業の概要

- ・総合的なデザイン芸術の基礎的、応用的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。
- ・日常から著作権や特許などの言葉を聞く事はあると思うが、それらを含む知的財産権について正しく理解している人は少ない。特に、創作活動を主軸とする芸術系大学生にとっては、知的財産権の知識のみならず自らの創作に密接した実践スキルを持つことが必要であり、それは創作者としての社会的な責任でもある。この授業では、在学中だけに限らず卒業後におけるビジネスあるいは創作活動も含めて、実質的に知財スキルを活用できる人材の育成を目指す。

到達目標

- 1 三級知的財産管理技能士相当の知識力と実践力を習得することができる。
- 2 自分の作品の権利を守ることだけでなく、自分が人の権利を侵さない様に法律を正しく理解することができる。

評価方法

授業レポートA（毎回提出）：2 0 %、授業レポートB（1 5 回分を定期試験日に提出）：4 0 %、定期試験：4 0 % の割合で評価する。

注意事項

- ・社会的にますます知財人材の強化がもてめられているので、受講を機に国家資格である知的財産管理技能検定3級（年3回）の受験・取得を勧める。
- ・演習の調査等で学外で授業を行うことがある。
- ・授業の一部は集中授業形式になることがあるのでスケジュールに注意すること。

授業計画

- 授業計画01：オリエンテーション：授業の目的と方法、評価基準の説明
- 授業計画02：知的財産権の概要：知的財産権の全体像を把握
- 授業計画03：著作権1：著作権の全体像を把握
- 授業計画04：著作権2：著作者人格権と著作財産権
- 授業計画05：著作権3：著作財産権の制限と保護期間
- 授業計画06：産業財産権の概要：各財産権の出願・登録
- 授業計画07：特許権と実用新案権1：特許権と実用新案権の概要
- 授業計画08：特許権と実用新案権2：発明や考案から出願・登録・実施
- 授業計画09：意匠権1：意匠権の概要
- 授業計画10：意匠権2：出願から登録・実施
- 授業計画11：商標権1：商標権の概要
- 授業計画12：商標権2：出願から登録・実施
- 授業計画13：その他の法律：不正競争防止法、独占禁止法、種苗法
- 授業計画14：条約と国際登録：パリ条約、特許協力条約等
- 授業計画15：まとめ：知的財産法の総括

授業外学習

- ・授業内容理解確認シート及びテキストを配布するので、予習・復習を心がけること。
- ・次の授業までの1週間で、気になった知財関連ニュースのサマリーと考察をまとめておき、次の授業レポートに記すこと。
- ・各回の始業時に小テストを行うので、前回の授業内容についてよく復習しておくこと。
- ・学習時間の目安：合計60時間

教科書

参考書

聴いてわかる著作権法（CD） 塩島武徳 紙子出版企画

備考

入門統計学（22204）

前期

Introduction to Statistics

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	2 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

確率論をベースとして、統計的データをまとめたり分析したりするために必要な統計学的知識の基礎を学ぶことを目的とする。最初に統計の基礎としてデータ・グラフ・基本統計量などについて学習し、次いで統計のベースとなる確率論の基礎を学び、それに基づいたデータの分析手法（推定・検定等）について学習する。

学科の各コースに共通する基礎的な知識及び技能を身に着けることを目的とする科目である。

到達目標

- 「統計学の基礎的な知識を身につける。」
- 「教科書などの資料を参照しながらであればデータの整理・分析ができるようになる。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への参加状況などの平常点 4 0 %（到達目標 1、2 を評価）と授業中に行なう小テスト 6 0 %（到達目標 1、2 を評価）により評価する。小テストは間違いの訂正後の再提出分も評価に加える・

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	統計とは（扱うデータ・記述統計と推測統計）
第2回	度数分布とヒストグラム
第3回	基本統計量（代表値と散らばりの尺度）
第4回	確率の基礎 1（場合の数・順列・組合せと統計的確率）
第5回	確率の基礎 2（条件付き確率と事象の独立・従属）
第6回	確率の基礎 3（2 項定理）
第7回	確率変数と確率分布
第8回	2 項分布
第9回	連続的なデータと確率変数
第10回	正規分布
第11回	母集団と標本・標本の抽出法
第12回	推定（平均・比率、区間推定）
第13回	検定（平均・比率の差、独立性）
第14回	相関（散布図・相関係数）と回帰分析
第15回	まとめ

授業外学習

予習として授業計画の毎回のテーマに関連する部分を教科書から探し、目を通しておくこと。（毎週 1 時間程度）
また、各回の授業開始時に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、しっかり復習しておくこと。（毎週 3 時間程度）

教科書

ミニマムエッセンス統計学|三土 修平|日本評論社|978-4-535-55396-5
確率・統計入門 順列・組み合わせから推測まで|有馬 哲ほか|実教出版|978-4-407-03147-8

参考書

授業中に適宜指示する。

備考

年次	2 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

データから結果のみが得られる統計パッケージではなく一般的な表計算ソフトを用いて、できるだけ計算や処理の手順が分かるような形をで、統計解析を実践的に学習する。

学科の各コースに共通する基礎的な知識及び技能を身に着けることを目的とする科目である。

社会調査士資格取得のための必須科目である。

到達目標

- 1 「統計資料や調査報告などの集計データやグラフの内容が理解できるようになる。」
- 2 「簡単なものなら自ら計算したり図表等を作成したりすることができるようになる。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業に取り組む姿勢などの平常点 6 0 %（到達目標 1、2 を評価）と、授業中に指示する課題 4 0 %（到達目標 1、2 を評価）により評価する。

注意事項

- ・ 授業を欠席する（した）場合は、必ず欠席届を提出すること。
- ・ 各回に指示する提出物は平常点の評価に用いるので不十分でも必ず提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	表計算で統計データを扱う（表とグラフの基礎）
第2回	大量データ入力と計算によるデータの加工
第3回	データの並べ替えと抽出
第4回	一次元データの整理(度数分布表とヒストグラム)
第5回	一次元データの分析（累積度数・ローレンツ曲線）
第6回	代表値の計算（平均・加重平均・中央値・分位点）
第7回	散らばりの尺度の計算（範囲・四分位偏差・分散と標準偏差）
第8回	度数分布表からの代表値・散らばりの尺度の計算
第9回	二次元データの整理（散布図と分割表）
第10回	二次元データの分析（共分散と相関係数）
第11回	分割表を使った独立性の検定
第12回	相関係数を使った検定
第13回	回帰分析 1（因果関係と回帰モデル、回帰係数の推定）
第14回	回帰分析 2（当てはまりのよさ・重回帰分析）
第15回	まとめ

授業外学習

- ・ 授業計画のテーマに沿って予習として教科書（特に理論的な事項）に目を通しておく。（毎週 2 時間程度）
 - ・ 時間内にでき上がらなかった例題を仕上げ、取り組んだ例題の詳細（計算式の成り立ち等）をきちんと理解できるよう復習をする。（毎週 2 時間程度）
-

教科書

Excel による統計入門 第4版|縄田 和満|朝倉書店|978-4-254-12243-5

参考書

適宜指示する。

備考

ITパスポート特論（22601）

通年

Credit for IT Passport

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	1 年
対象	22 ～ 17 I
単位数	2. 0 単位
担当教員	 赤木恒雄  渡谷真吾

授業の概要

試験合格に対して単位を認定する科目である。「情報処理技術者試験」の一つである「ITパスポート試験」に合格したものに對して単位を認定する。なお、「ITパスポート試験」はこれからの社会人に必要であるITを正しく理解し、積極的に活用する知識を身につけていることを確認するものである。

到達目標

1. 「情報処理技術者試験」の一つである「ITパスポート試験」に合格する。

評価方法

「情報処理技術者試験」の一つである「ITパスポート試験」に合格したものに對して単位を認定する。

注意事項

1. 「ITパスポート試験」を受験する予定の学生は必ず履修登録をしておくこと。
2. 当該試験に合格し、合格証書の写しを提出することにより、単位認定を受けることができる。

授業計画

ITパスポート試験の出題分野について学習する。

授業外学習

学習時間はおおよそ90時間である。

授業外学習を基本とする。分からないところは、オフィスアワーを活用する。

教科書

指定しない

参考書

指定しない

備考

年次	2 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 徳田美智

授業の概要

企業の置かれている環境、収益状況、経営戦略、動向などを中心に企業経営を学習する。近年多くの日本企業は海外事業を強化しているので、グローバル展開についても実例で学ぶ。特に、アジアでのビジネス状況の内容を把握するため、ニュースや新聞記事をもとに、企業の動向について分析を行う。又、不祥事も頻発しており、危機管理の重要性が高まっている。危機管理について、企業統制などと共に学習する。

【アクティブラーニング】グループディスカッション、PowerPointによるプレゼンテーションを実施する
【フィードバック】課題（レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などの フィードバックを含めた指導を行う

到達目標

- 1．国際経営の事例から、グローバル化の背景、ならびにグローバル化に必要な現地市場への適応あるいは標準化について理解し、説明できるようになる。
- 2．ケース分析をもとに、多様な国際経営活動について理解する。
- 3．企業の海外進出だけではなく、私たちの身近な生活の中にもグローバル化が進んでいることを理解し、グローバル化を視野に入れた企業活動へ貢献できる人材を目指す。

評価方法

授業に取り組む姿勢 2 0 %（到達目標1を評価）、課題レポート 3 0 %（到達目標2と3を評価）、グループディスカッション50 %（到達目標2と3を評価）。

授業回数の3分の1以上欠席した場合は、単位を認定しない。

注意事項

【講義中のスマホ・タブレットの使用について】

講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	イントロダクション－企業はなぜ海外に進出するのか－
第2回	国際経営とは－味の素のケース－
第3回	国際経営戦略－トヨタ自動車のケース－
第4回	国際経営組織－アクセンチュアのケース－
第5回	国際マーケティング－資生堂のケース－
第6回	グローバル市場調査－インドのインスタントヌードル市場のケース－
第7回	グローバルな文化環境－グリコのポッキーのケース－
第8回	グループディスカッション－日本の商品、サービスを海外で提案してみよう－
第9回	海外生産－シーゲート・テクノロジーのケース－
第10回	国際研究開発とイノベーション－ネスレのケース－
第11回	国際人的資源管理－シーメンスのケース－

回数	内容
第12回	国際経営の現在－流通－
第13回	国際経営の現在－エレクトロニクス産業－
第14回	国際経営の現在－IT産業－
第15回	国際経営マネジメントの変革

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1) 教科書などの復習、ノート整理を行う。（毎週1.5時間程度）
- 2) グローバル化に関連するニュースや新聞記事を毎日チェックし、企業活動の背景や動向を理解する。（毎週2.5時間程度）

教科書

吉原秀樹他編著『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣ブックス（2013）ISBN：978-4-641-18415-2

参考書

小田部正明・栗木契・太田一樹編著『1からのグローバル・マーケティング』碩学舎（2017）ISBN：978-4-502-21851-4

浅川和宏著『グローバル経営入門』日本経済新聞社（2003）ISBN：978-4-532-13260-6

備考

会社法（22306）

前期

Company Law

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	2 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

会社法について学ぶ。会社法は民法および商法の応用分野にあたるので、民法で学んだ法人や財産権の知識に加えて、商行為や株式会社の組織・運営についても学ぶようにする。特に現代社会における商行為の中心は株式会社であるので、株式の機能や株主の権限・責任について重点的に学び、適切に会社を運営する意味について知識を深めて行くようにする。

到達目標

- 1) 株式会社の組織および運営について理解し、説明出来る。
- 2) 株式の機能について理解し、説明出来る。
- 3) 資金調達について理解し、説明出来る。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合30%

時事問題への感度（毎回の感想）：評価割合30%

論述：評価割合40%

* 合格基準は60点。

注意事項

民法総論を履修していることが望ましい。

授業計画

第1回 会社法の進め方について説明する。教科書の進捗と時事問題の取り上げ方、その割合について説明する。

第2回 会社の設立について学ぶ。会社法では持分会社と株式会社の2種類について規定があるので、どのような事業を行うかによって事業形態を選択することが出来る。それぞれの会社の形態によって長所/短所があることを理解出来る。関連する時事問題も取り上げる。

第3回 譲渡制限の付いた株式の機能について学ぶ。株式会社の大多数の形態である譲渡制限株式会社について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第4回 株式上場について学ぶ。株式を市場で売買出来るようにすることで資金調達が出来るようになることを理解する。関連する時事問題も取り上げる。

第5回 約束手形の機能について学ぶ。会社が他社と取引する場合の決済手段である約束手形の振出について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第6回 委員会設置会社の仕組みと機能について学ぶ。取締役と執行役との相関関係について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第7回 ストック・オプション制度について学ぶ。自社株を使った報酬制度について理解し、会社の流動資金と自社株を組み合わせた人事システムについて分かるようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第8回 フランチャイズ契約の特徴について学ぶ。商標権やノウハウなどを組み合わせた事業運営形態について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第9回 資金調達の方法としての銀行融資と社債の発行について学ぶ。間接金融の仕組みと直接金融の利点について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第10回 ファンドの活用について学ぶ。未公開株を使った資金調達の方法や不振企業の立て直しなどを通じた投資の仕組みを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第11回 消費者重視のビジネスモデルについて学ぶ。消費者が商品を選ぶまでの過程とその後の固定客化を通じたビジネスモデルについて考えることが出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第12回 コーポレート・ガバナンスの重要性について学ぶ。企業経営における経営倫理や社内統制について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第13回 M & Aによる企業戦略について学ぶ。他社の買収による事業拡大について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第14回 会社の再建について学ぶ。会社更生法と民事再生法との違いを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第15回 会社の運営方法について学んだ。時事問題を毎回取り上げているので、最終回にこれを整理して理解を深める。

授業外学習

第1回 教科書のテーマだけでなく、時事問題も多く取り上げて補足する。会社法を学ぶには、世の中の動きに敏感になることが大切であると理解する。（標準学習時間120分）

第2回 予習：会社の設立について予め自分で調べることが大切である。復習：持分会社と株式会社ではどういった点が異なるのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第3回 予習：株式譲渡について予め自分で調べることが大切である。復習：譲渡制限株式会社の特徴について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第4回 予習：株式の上場について予め自分で調べることが大切である。復習：資金調達方法について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第5回 予習：約束手形について予め自分で調べることが大切である。復習：約束手形の機能と振出方法について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第6回 予習：執行役の役割について予め自分で調べることが大切である。復習：委員会設置会社の特徴を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第7回 予習：ストック・オプション制度について予め自分で調べることが大切である。復習：キャッシュを使うか自社株を使うかという報酬制度について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第8回 予習：フランチャイズ契約について予め自分で調べることが大切である。復習：商標権やノウハウをうまく組み合わせて使う方法について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第9回 予習：資金調達について予め自分で調べることが大切である。復習：社債の発行の仕組みについて理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第10回 予習：資金調達について予め自分で調べることが大切である。復習：未公開株を取得したり不振企業の株式を買い取ることでファンドを形成する仕組みについて理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第11回 予習：消費者について予め自分で調べることが大切である。復習：消費者重視のビジネスモデルの根底にある発想を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第12回 予習：コーポレート・ガバナンスについて予め自分で調べることが大切である。復習：経営倫理の必要性や社内統制の重要性について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第13回 予習：企業買収について予め自分で調べることが大切である。復習：M & Aの方法について理解を深めることが出来る。（標準学習時間120分）

第14回 予習：経営不振と会社の再建について予め自分で調べることが大切である。復習：会社更生法と民事再生法の違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第15回 予習：これまでのまとめノートを作るようにをする。復習：教科書のテーマをおさらいし、時事問題との繋がりを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

* 標準学習時間の合計：合計 6 0 時間

教科書

河野正英『商取引法講義（改訂版）』大学教育出版（ISBN: 978-4-86429-414-0）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

年次	2 年
対象	22 ～ 201
単位数	2. 0 単位
担当教員	 徳田美智

授業の概要

企業や様々な団体は、環境変化に対して様々な方法で適応する。その一つが経営戦略の策定である。策定した経営戦略をどのように実践していくのか、それぞれの経営戦略の特徴と組織について学習する。さらに、ケース分析を通して、実践課題から経営戦略論についてより理解を深める。

【アクティブラーニング】グループ・ディスカッションならびにプレゼンテーションを取り入れている
【フィードバック】課題（小テスト、レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などの フィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1. 経営戦略論の発展と、変化の激しい環境のもと企業経営における経営戦略の重要性について理解し、説明できるようになる。
- 2. 企業経営に関する新聞やニュースに関心を持ち、その概要や背景について経営戦略の視点で説明できるようになる。
- 3. 企業の課題解決について、経営戦略の視点から考察できるようになる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 2 0 %（到達目標1を評価）、課題レポート 3 0 %（到達目標2、3を評価）、定期試験 5 0 %（到達目標1~3を評価）
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、定期試験を受験することができません。

注意事項

経営学概論を事前に受講している事が望ましい。
【講義中のスマホ・タブレットの使用について】
講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	経営戦略とは（オリエンテーション）
第2回	業界の構造分析
第3回	企業を取り巻く環境と分析手法
第4回	3つの基本戦略
第5回	製品ライフサイクル別戦略
第6回	市場地位別戦略
第7回	経営資源の捉え方（コア・コンピタンス）
第8回	戦略的事業システムの構築
第9回	事業領域（ドメイン定義の考え方）
第10回	成長戦略
第11回	資源展開
第12回	戦略の社会的側面（CSR）
第13回	組織文化

回数	内容
第14回	企業改革
第15回	ふりかえり、まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1) 教科書等の復習、ノート整理を行う。(毎週2.5時間程度)
- 2) 企業経営に関する新聞やニュースを日々チェックし、分析を行なう。(毎週1.5時間程度)

教科書

嶋口充輝、内田和成、黒岩健一郎編著『1からの戦略論<第2版>』碩学舎（2016）ISBN 978-4502167416

参考書

必要に応じ授業中に適宜紹介

備考

アルゴリズム（22109）

前期

Algorithm

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	2 年
対象	22 ～ 19 I
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 プラダンスジット

授業の概要

コンピュータやインターネットに代表される情報処理・情報通信技術は、現代社会の基盤となっています。このような技術の基盤となっているのが「アルゴリズム」と呼ばれる概念です。アルゴリズムは、観測データからの気象予測や、文章からの執筆年代予測など、あらゆる分野での問題解決の基礎となるものです。

本講義では、アルゴリズムの基本概念や、アルゴリズムを作るための考え方について学ぶ。

【I C Tを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る。更に、それを使って講義に関する電子資料、学生への課題の提示、また学生による課題提出などを統合的に管理する。

到達目標

- 1 記述したプログラムがより高速に、正しく動作することを確認できる。
- 2 他人によって作られたプログラムを理解し、自分のプログラムに取り込んでプロジェクトを完成できる。

評価方法

中間テスト・Tutorial やレポート提出・定期試験の平常点で評価を行う。Tutorial やレポート点（30％）・中間テスト（30％）定期試験（40％）再試験（無）。

注意事項

教職科目＜情報、コンピュータ及び情報処理＞の必修科目

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス・アルゴリズムとは
第2回	アルゴリズムの評価
第3回	リニアサーチ（線形探索）
第4回	バイナリサーチ（二分探索）
第5回	バブルソート
第6回	選択ソート・挿入ソート
第7回	クイックソート
第8回	中間テスト
第9回	スタック・キュー
第10回	プライオリティ・キュー
第11回	単方向リンクリスト
第12回	バイナリーツリー（二分木）
第13回	AVL木
第14回	ハッシュ関数

回数	内容
第15回	まとめ
授業外学習 各回の授業内でTutorial を実施するので、授業計画を参考にしてよく予習・復習をしておくこと。合計60時間以上の授業外学習が必要となる。	
教科書 資料を配布する。	
参考書 必要に応じて指示する。	
備考	

年次	2 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2. 0 単位
担当教員	 近藤研二

授業の概要

情報デザインとしての視点から、Webやゲームなどのインタラクティブなメディアの情報のわかり易さ、システムの使いやすさについての考え方やその方法について、メディア環境に対応した芸術表現の基礎的な知識および技能を身につけることを目的としている。

【アクティブラーニング】

グループ・ディスカッションとプレゼンテーションを行う。

【フィードバック】

課題（レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1 情報を、相手にわかりやすく、正確に伝えられるようにする方法や考え方について体系的に理解し、表現できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題レポートなどの平常点と定期試験で評価を行う。評価は、課題レポート・受講態度（50%）、定期試験（50%）の割合で評価する。

注意事項

特に無し

授業計画

- 1週目：オリエンテーション
- 2週目：コミュニケーションの構造
- 3週目：わかり易さと認知のプロセス
- 4週目：情報をわかりわかり易くするための方法
- 5週目：情報の組織化
- 6週目：図解の方法（演習1）
- 7週目：図解の方法（演習2 プレゼンテーション）
- 8週目：KJ法について（演習1 ブレーンストーミング）
- 9週目：KJ法について（演習2 グループ編成 グループ・ディスカッション）
- 10週目：KJ法について（演習3 図解）
- 11週目：KJ法について（演習3 文書化 プレゼンテーション）
- 12週目：ユーザビリティー1（ヤコブ・ニールセンによるユーザビリティーを評価するポイント）
- 13週目：ユーザビリティー2（難しい作業を単純なものにするための原則）
- 14週目：ユーザーエクスペリエンス
- 15週目：まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 前回の授業についてよく復習しておくこと。
- ・ 授業の内容の理解を深めるための演習では、事前課題の準備をしておくこと。
- ・ 予習の具体的な内容や方法については、授業中に詳しく指示する

教科書

使用しないので、購入する必要はありません。

参考書

参考文献は、授業時間に随時紹介する。

備考

ユニバーサルデザイン論（22353）

後期

Universal Design

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	2 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 柳田宏治

授業の概要

- ・デザインの基礎的、応用的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。
- ・デザインの重要なテーマの一つである「ユニバーサルデザイン」について、その考え方や事例の研究を行い理解を深める。また、建築物や製品、サービスなどの実施されているデザインについて、ユニバーサルデザインのレベルを調査・分析し、改善提案を行うことで、理論を実践に繋げる。これらにより、ユーザーの多様性とデザインとの関係を学ぶ。
- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【実務経験のある教員による授業科目】柳田：元三洋電機株式会社勤務（家電デザイン部門）： 家電品のプロダクトデザインの実務経験を通じて得た実践的なHCD（Human Centered Design）手法に基づいて、既存製品の抱える問題を発見し解決するリ・デザインを指導している。

到達目標

- 1 ユニバーサルデザインの考え方を理解し説明できる。
- 2 ユニバーサルデザインの実践手法を理解し説明できる。

評価方法

演習課題及び試験50%、授業に取り組む姿勢50%で評価する。

注意事項

- ・演習や事例研究はグループワークで行う。
- ・演習の調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

- 授業計画01：オリエンテーション
- 授業計画02：ユニバーサルデザインの気付き：演習（評価実験）
- 授業計画03：ユニバーサルデザインの概要 1：ユニバーサルデザインの定義
- 授業計画04：ユニバーサルデザインの概要 2：障害とは
- 授業計画05：ユニバーサルデザインの概要 3：障害モデルとユニバーサルデザイン
- 授業計画06：ユニバーサルデザインの事例研究 1：ユニバーサルデザイン7原則
- 授業計画07：ユニバーサルデザインの事例研究 2：製品、建築、その他
- 授業計画08：ユニバーサルデザインの事例研究 3：情報、Web、その他
- 授業計画09：ユニバーサルデザインの事例研究 4：プログラム、サービス、その他
- 授業計画10：ユニバーサルデザインの開発 1：ユーザーニーズ手法
- 授業計画11：ユニバーサルデザインの開発 2：評価、要求抽出手法
- 授業計画12：ユニバーサルデザインの開発 3：演習 1（調査、評価）
- 授業計画13：ユニバーサルデザインの開発 4：演習 2（改善提案）
- 授業計画14：ユニバーサルデザインの開発 5：演習 3（発表）
- 授業計画15：総括

授業外学習

- ・日常生活の中で、実施されている身の周りのユニバーサルデザインについて意識を向け、授業で講義する理論に照らして理解を深めること。
- ・学習時間の目安：合計60時間

教科書

プリントを配布する。

参考書

「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」 日本人間工学会、共立出版 (2003) 978-4320071551

「IAUD UDマトリックス ユーザー情報集・事例集」 国際ユニヴァーサルデザイン協議会(2010)、978-4-9903720-2-6

「ユニバーサルデザインの教科書」 日経デザイン編、日経BP社 (2005)

その他、適宜紹介する。

備考

年次	2 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 村山公保

授業の概要

情報ネットワーク技術の基礎について学習する。ネットワーク社会で必要とされるインターネットや組織内の情報ネットワークシステムの仕組みについて学び、情報ネットワークシステム上の様々なサービスを効率よく活用できる教養を身につける。また、情報と職業のかかわりを理解し、情報にかかわる職業人としての資質・能力を身につける。

【アクティブラーニング】グループ・ワークとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1. コンピュータとネットワークが社会でどのように利用されているか意識することが増える。
2. ネットワークの通信で使われるアドレスについて知る。
3. インターネットを動かしている代表的なプロトコルを知る。

評価方法

- ・定期試験100%（到達目標 1、2、3を評価）の重みで判定する。ただし、未提出のレポート(品質が低いレポートを含む)があったり、プレゼンテーションを行っていない回(品質が低いプレゼンテーションを含む)がある場合には、減点の対象となる。
- ・定期試験は「授業の振り返り」として実施する。内容は「自分が参加したチームの発表内容や他のチームの発表内容、課題への取り組みやグループワークでの貢献度、授業での発言」など、自分が行った作業の報告、および、アピールポイントを論述するものとする。日頃の学修成果を試す試験となっているので、初回の授業から楽しみながら気合を入れて継続的に授業、および、時間外学習に取り組むこと。

注意事項

- ・授業はMacがある5号棟5階5519共同実験室で行う。入室には学生証が必要なので、忘れないこと。
- ・学生のプレゼンテーションでは書画カメラ（実物投影機）とプロジェクターを使用する。
- ・他のグループのメンバーに大きな迷惑となるので、欠席をしないこと。止むを得ず欠席した場合には同じグループのメンバーと授業時間外に連絡を取って話し合いをすること。
- ・授業の内容には、情報処理技術者試験の、ITパスポート試験、基本情報技術者試験で出題される内容を含んでいる。
- ・記録に残すため、発表会やグループディスカッション等の授業風景を撮影することがある。

授業計画

回数	内容
第1回	情報ネットワークの概要と活用事例
第2回	コンピュータと情報機器
第3回	コンピュータと情報機器に関するグループ討論
第4回	コンピュータと情報機器に関するグループワーク
第5回	コンピュータと情報機器に関するグループ発表
第6回	ネットワークの基礎知識
第7回	ネットワークの基礎知識に関するグループ討論
第8回	ネットワークの基礎知識に関するグループワーク

回数	内容
第9回	ネットワークの基礎知識に関するグループ発表
第10回	情報ネットワークの仕組み
第11回	情報ネットワークの仕組みに関するグループ討論
第12回	情報ネットワークの仕組みに関するグループワーク
第13回	情報ネットワークの仕組みに関するグループ発表
第14回	情報と職業の関わりに関する討論会
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

時間外に自己の能力を高める訓練をすることが大切である。その成果を記録し、定期試験でアピールできるようにする。

- ・事前に教科書を読み、不明点や疑問点を明確にしておくこと。
- ・個人課題やグループ課題を出題するので、自己学習および復習として活用し、必ずやってくること。
- ・授業時間内に作業が終わらなかった場合は、授業時間外に作業をして、終わらせてくること。

教科書

村山公保著、「基礎からわかるTCP/IP ネットワークコンピューティング入門第3版」、オーム社、2015、978-4-274-05073-2

参考書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄著、「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

備考

ビジネス法 I (22408)

前期

Business Law I

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	3 年
対象	22 ～ 19 I
単位数	2. 0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

民法および会社法（商法含む）で学んだ知識をさらに深める科目とする。企業を運営するためには資金調達や人事管理が必要となるが、他社との関係では公正な競争を行うことが必要となる。具体的には、財産権の応用分野である知的財産権の仕組みと機能について知り、経済競争法の目的と自由競争原理の重要性について学ぶ。現代社会における株式会社の運営は米国等の影響を強く受け、株主の役割変遷や内部組織の変革を経験するようになってきた。今日の事業運営における重要ポイントとリスクについて講義する。

到達目標

- 1) 競争政策について理解し、説明出来る。
- 2) 公正な競争について理解し、説明出来る。
- 3) 知的財産権について理解し、説明出来る。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合30%

時事問題への感度（毎回の感想）：評価割合30%

論述：評価割合40%

* 合格基準は60点。

注意事項

民法総論、商法総論、会社法を履修していることが望ましい。

授業計画

第1回 企業法務の進め方について説明する。教科書の進度と時事問題の取り上げ方、その割合について説明する。

第2回 経済法の原則と競争政策について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計6回を予定しており、今回の小テーマとしては資本主義における自由競争について学ぶので、資本主義における自由競争の重要性とこれを維持する政策について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げるので、具体的な社会への適用についても理解出来る。

第3回 経済法の原則と競争政策についての2回目。今回の小テーマとしては価格カルテルの禁止について学ぶので、同じ業界ないし近接する業界内での業者間の取り決めについては十分に注意を要することを理解出来る。関連する時事問題も取り上げる。

第4回 経済法の原則と競争政策についての3回目。今回の小テーマとしては企業結合の禁止について学ぶので、M&Aをはじめとする企業間の合併について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第5回 経済法の原則と競争政策についての4回目。今回の小テーマとしては景品表示法の規定内容について学ぶので、特に商品の表示内容について規制があることを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第6回 経済法の原則と競争政策についての5回目。今回の小テーマとしては不正競争防止法について学ぶので、特に商品名や内容物の原産地表示について規制があることを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第7回 経済法の原則と競争政策についての6回目。今回の小テーマとしては独占禁止法と知的財産権との兼ね合いについて学ぶので、企業間の競争を有利に運ぶためには知的財産権の確保が死活的に重要であることを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第8回 知的財産権について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計7回を予定しており、今回の小テーマとしては知的財産権の種類（著作権と産業財産権）について学ぶので、知的財産権の種類とその内容・特徴について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第9回 知的財産権についての2回目。今回の小テーマとしては著作権（複製権としての著作権、著作隣接権、作者人格権）について学ぶので、著作権の中には譲渡可能な権利と譲渡が不可能な権利があることを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第10回 知的財産権についての3回目。今回の小テーマとしてはネット社会における著作権の保護について学ぶので、技術的な側面と社会有用性の側面から著作権の保護の問題を理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第11回 知的財産権についての4回目。今回の小テーマとしては米国の著作権保護期間の延長（いわゆるディズニー法）問題について学ぶので、法的な側面から著作権の保護の問題を理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第12回 知的財産権についての5回目。今回の小テーマとしては特許権の取得とライセンス使用料について学ぶので、特許権の取得までの手続

とこれをビジネスに活かす方法を理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第13回 知的財産権についての6回目。今回の小テーマとしてはいわゆる国際特許（PCT特許）について学ぶので、国際的に通用する特許権の取得から見る世界情勢を理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第14回 知的財産権についての7回目。今回の小テーマとしては並行輸入と商標権について学ぶので、ブランド戦略に代表される商標権の取得がビジネスに有利に働くが、逆に模倣品対策に失敗すると損失を被ることを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第15回 前半では経済法と競争政策について学び、後半では知的財産権について学んだ。時事問題を毎回取り上げているので、最終回にこれを整理して理解を深める。

授業外学習

第1回 教科書のテーマだけでなく、時事問題も多く取り上げて補足する。企業法務を学ぶには、世の中の動きに敏感になることが大切であると理解する。（標準学習時間120分）

第2回 予習：資本主義について予め自分で調べることが大切である。復習：自由競争の重要性を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第3回 予習：独占禁止法について予め自分で調べることが大切である。復習：なぜ価格カルテルが禁止されるのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第4回 予習：独占禁止法について予め自分で調べることが大切である。復習：企業結合の形態と禁止される場合の理由を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第5回 予習：景品表示法について予め自分で調べることが大切である。復習：なぜ商品の表示内容について規制されるのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第6回 予習：不正競争防止法について予め自分で調べることが大切である。復習：原産地表示の重要性について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第7回 予習：企業間の技術競争について予め自分で調べることが大切である。復習：外形的には矛盾する独占禁止法と知的財産権法制の法目的の違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第8回 予習：知的財産権について予め自分で調べることが大切である。復習：知的財産権の種類と内容を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第9回 予習：著作権について予め自分で調べることが大切である。復習：狭義の著作権、著作隣接権、著作者人格権の違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第10回 予習：著作権について予め自分で調べることが大切である。復習：技術的な面からの著作権の保護制度について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第11回 予習：著作権について予め自分で調べることが大切である。復習：法的な面からの著作権保護の是非について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第12回 予習：特許権について予め自分で調べることが大切である。復習：特許権を取得するとライセンス使用料が獲得出来るようになることについて理解する。（標準学習時間120分）

第13回 予習：国際特許（PCT特許）について予め自分で調べることが大切である。復習：国際的な技術競争の実態について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第14回 予習：商標権について予め自分で調べることが大切である。復習：いわゆるブランド戦略について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第15回 予習：これまでのまとめノートを作るようにをする。復習：教科書のテーマをおさらいし、時事問題との繋がりを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

* 標準学習時間の合計：合計 6 0 時間

教科書

河野正英『商取引法講義（改訂版）』大学教育出版（ISBN: 978-4-86429-414-0）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

ビジネス法Ⅱ（国際法を含む）（22458）

後期

Business Law Ⅱ (Containing an International Law)

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	3年
対象	22～191
単位数	2.0単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

20世紀と異なり、21世紀の経済秩序は環境問題への対処を中心的な命題として技術革新が進んでいる。また、企業の活動範囲が飛躍的に広がり、資金調達や人事の面でも国際的な知識が必要となっている。このビジネス法の講義では法学関連科目の最後の科目として、世界的な経済秩序の潮流と日本経済の将来展望を念頭に置いた講義内容とする。百年単位で生じるような技術イノベーションとそれをいち早く自社に摂り入れるべく熾烈な競争を行う現代の企業の姿について知識を深めることをこの講義の目的とする。

到達目標

- 1) 国際金融について理解し、説明出来る。
- 2) 自由貿易について理解し、説明出来る。
- 3) 国際環境問題について理解し、説明出来る。
- 4) 技術革新（イノベーション）について理解し、説明出来る。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合30%

時事問題への感度（毎回の感想）：評価割合30%

論述：評価割合40%

*合格基準は60点。

注意事項

会社法とビジネス法Ⅰを履修していることが望ましい。

授業計画

第1回 ビジネス法の進め方について説明する。教科書の進度と時事問題の取り上げ方、その割合について説明する。

第2回 国際金融と自由貿易について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計7回を予定しており、今回の小テーマとしては国際金融の歴史について学ぶので、特に近代資本主義の下での金融の役割の変遷について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げるので、具体的な社会への適用についても理解出来る。

第3回 国際金融と自由貿易についての2回目。今回の小テーマとしてはブレトンウッズ体制について学ぶので、戦後の国際経済秩序について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第4回 国際金融と自由貿易についての3回目。今回の小テーマとしては金本位制から変動相場制への移行について学ぶので、金本位制が崩れた理由について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第5回 国際金融と自由貿易についての4回目。今回の小テーマとしてはGATT/WTO体制について学ぶので、自由貿易の基本的枠組みについて理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第6回 国際金融と自由貿易についての5回目。今回の小テーマとしては銀行業と証券業との差異について学ぶので、預金と投資の違いについて理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第7回 国際金融と自由貿易についての6回目。今回の小テーマとしては金融商品の開発と金融危機について学ぶので、金融技術の進展と金融変動が生じる理由について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第8回 国際金融と自由貿易についての7回目。今回の小テーマとしてはFTAの進展について学ぶので、自由貿易における地域統合の現状について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第9回 国際環境問題とイノベーションについて学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計6回を予定しており、今回の小テーマとしては循環型社会の必要性について学ぶので、自然環境と文明社会との相克について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第10回 国際環境問題とイノベーションについての2回目。今回の小テーマとしては地球温暖化京都会議での合意内容（＝京都議定書として結実）について学ぶので、地球温暖化のメカニズムと温暖化ガスの種類などについて理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第11回 国際環境問題とイノベーションについての3回目。今回の小テーマとしては温暖化ガスの排出を削減またはゼロにする発電方式について学ぶので、新エネルギーの利用や21世紀のエネルギー事情について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第12回 国際環境問題とイノベーションについての4回目。今回の小テーマとしては温暖化ガスの排出を削減する省エネ技術について学ぶので、新素材の開発やこれの利用可能性について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第13回 国際環境問題とイノベーションについての5回目。今回の小テーマとしてはEEZ（排他的経済水域）と海洋資源について学ぶので、海底資源の活用について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第14回 国際環境問題とイノベーションについての6回目。今回の小テーマとしてはイノベーションと社会変革について学ぶので、技術革新が社会生活を一変させる可能性があることについて理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第15回 前半では国際金融と自由貿易について学び、後半では国際環境問題とイノベーションについて学んだ。時事問題を毎回取り上げているので、最終回にこれを整理して理解を深める。

授業外学習

第1回 教科書のテーマだけでなく、時事問題も多く取り上げて補足する。社会科学の分野を学ぶ場合には、世の中の動きに敏感になることが大切であると理解する。（標準学習時間120分）

第2回 予習：国際金融の歴史について予め自分で調べることが大切である。復習：時事問題も含めて金融がどのような役割を持っているのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第3回 予習：戦後の経済秩序の基本原則について予め自分で調べることが大切である。復習：ブレトンウッズ体制の仕組みを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第4回 予習：金本位制について予め自分で調べることが大切である。復習：金本位制から変動相場制への移行がなぜ起きたのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第5回 予習：戦後の自由貿易の原則について予め自分で調べることが大切である。復習：GATT/WTO体制の基本原則について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第6回 予習：銀行と証券会社の違いについて予め自分で調べることが大切である。復習：銀行業と証券業との差異とそれが生まれた必然について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第7回 予習：金融危機の歴史について予め自分で調べることが大切である。復習：急速に進んでいる金融商品の開発とこれに付随して頻発するようになった金融危機発生のメカニズムを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第8回 予習：FTA（自由貿易圏）とは何かについて予め自分で調べることが大切である。復習：WTOがあるにも拘らず、各地でFTAの締結が推進されるのは何故かについて理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第9回 予習：循環型社会について予め自分で調べることが大切である。復習：地球温暖化の議論とセットで取り上げられるようになった循環型社会の必要性について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第10回 予習：京都議定書の内容について予め自分で調べることが大切である。復習：地球温暖化京都会議での合意内容について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第11回 予習：発電方式にはいろいろあるが、今日ではどのような方式が用いられているのかについて予め自分で調べることが大切である。復習：温暖化ガスの排出を削減またはゼロにする発電方式があるが、日本で採用すべき発電方式として優れているのはどの方式なのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第12回 予習：省エネ技術について予め自分で調べることが大切である。復習：温暖化ガスの排出を削減するには省エネ技術が役立つことを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第13回 予習：EEZ（排他的経済水域）について予め自分で調べることが大切である。復習：これからはEEZ（排他的経済水域）の調査と海洋資源の開発が死活的に重要となることを理解出来るようにする。（標準学習時間120分）

第14回 予習：技術革新の歴史について予め自分で調べることが大切である。復習：イノベーションが結果的に社会変革を引き起こすことを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第15回 予習：これまでのまとめノートを作るようにをする。復習：教科書のテーマをおさらいし、時事問題との繋がりを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

* 標準学習時間の合計：合計60時間

教科書

河野正英『商取引法講義（改訂版）』大学教育出版（ISBN: 978-4-86429-414-0）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

社会調査実習（22154）

後期

Practicum in Social Reaearch

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	3 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

社会調査の全過程を実習することを目的とする。つまり、調査の企画から報告書の作成に至るまでの一連の流れを実習を通じて体験的に学習する。

講義のキーワードを列挙する：調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、調査票の作成、対象者・地域の選定、面接調査の実施、集計、分析（Rによる）、仮説検証、報告書の作成、報告発表会の実施。

【アクティブラーニング】調査学習、グループ・ワークおよびプレゼンテーションを取り入れている。

到達目標

1 「社会調査の全過程を身につけること。」

評価方法

実習への取り組み 6 0 %（到達目標 1 を評価）、報告書 2 0 %（到達目標 1 を評価）および報告発表 2 0 %（到達目標 1 を評価）によって評価を行う。

注意事項

・グループ・ワークが中心となるので欠席は極力避け、どうしても避けられない時はきちんと連絡すること。

授業計画

回数	内容
第1回	社会調査ガイダンス（1）
第2回	社会調査ガイダンス（2）
第3回	調査の企画
第4回	仮説構成
第5回	調査項目の設定
第6回	調査票の作成（1）
第7回	調査票の作成（2）
第8回	面接調査の実施（1）
第9回	面接調査の実施（2）
第10回	面接調査の実施（3）
第11回	集計（1）
第12回	集計（2）
第13回	集計（3）
第14回	統計分析手法の概観（1）
第15回	統計分析手法の概観（2）
第16回	ここまでの復習，ガイダンス

回数	内容
第17回	分析（１）
第18回	分析（２）
第19回	分析（３）
第20回	分析（４）
第21回	分析（５）
第22回	仮説検証（１）
第23回	仮説検証（２）
第24回	報告書の作成（１）
第25回	報告書の作成（２）
第26回	報告書の作成（３）
第27回	報告書完成
第28回	報告発表会の準備（１）
第29回	報告発表会の準備（２）
第30回	報告発表会の実施

授業外学習

学習時間の目安：合計 30 時間

データ分析、報告書作成の項目ごとに、同様の内容の繰り返し作業などは分担して時間外に実施する。

教科書

資料を配布する。

参考書

社会調査の応用 量的調査編：社会調査士E・G科目対応、金井 雅之・小林 盾・渡邊 大輔（編）、弘文堂、ISBN978-4-335-55151-2

備考

データ解析（22301）

前期

Multivariate Data Analysis

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	3 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

既習の統計関係の講義を基礎として、多変量データ解析手法についての入門的内容を概説する。扱う手法は、重回帰分析を中心に、その基礎となる単回帰分析、その発展である数量化I 類と主成分分析である。

各手法ごとに説明、演習を繰り返す。演習では、統計解析パッケージを利用し、これらの手法を様々な状況で適用できる力を養うことを目指す。

社会調査士資格取得のための必須科目である。

到達目標

1 「重回帰分析、数量化I 類の手法が、統計解析パッケージを利用しながら、自由自在に取り扱えるようになること。」

評価方法

授業に取り組む姿勢などの平常点 6 0 %（到達目標 1 を評価）と授業中に指示する課題 4 0 %（到達目標 1 を評価）により評価する。

注意事項

・ノートパソコンを持参すること。

授業計画

回数	内容
第1回	データ解析の概要
第2回	データの記述と予測をする(1)（単回帰分析）
第3回	統計解析パッケージの使い方
第4回	練習 1 （単回帰によるデータ解析）
第5回	データの記述と予測をする(2)（重回帰分析）
第6回	練習 2 （重回帰によるデータ解析）
第7回	練習 3 （重回帰によるデータ解析）
第8回	データの記述と予測をする(3)（重回帰分析：変数選択）
第9回	練習 4 （変数選択を利用するデータ解析）
第10回	カテゴリカルデータを分析する（数量化I 類）
第11回	練習 5 （数量化I 類によるデータ解析）
第12回	多くのものを同時に比較する（分散分析）
第13回	練習 6 （分散分析によるデータ解析）
第14回	総合演習
第15回	総復習・まとめ

授業外学習

各回の授業開始時に小テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。（毎週4時間程度）

教科書

社会調査データ解析 (Rで学ぶデータサイエンス 17)、鄭 躍軍・金 明哲 (著)、共立出版、ISBN978-4-320-01969-0

参考書

社会調査の応用 量的調査編：社会調査士E・G科目対応、金井 雅之・小林 盾・渡邊 大輔（編）、弘文堂、ISBN978-4-335-55151-2

備考

年次	2 年
対象	21 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 守田均

授業の概要

近代文化の枠組の一部をなす芸術が、どのように成立したか、それ自身どのような制度として機能しているのかを中心に芸術と文化の関係を考察していく。

到達目標

学習時間の目安：合計 6 0 時間

芸術の暗黙の前提、および文化の暗黙の前提を意識する態度を身につける。

評価方法

課題および期末の定期試験(レポート)で評価。課題レポート（4 0 %）、定期試験(レポート)（6 0 %）の重みで判定。

注意事項

所定の提出物を全て提出すること。

美学・芸術学概論IおよびIIを履修済みであることが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	はじめに
第2回	文化をめぐるさまざまな問題
第3回	「本能」と「文化」
第4回	制度としての芸術（1）
第5回	制度としての芸術（2）
第6回	西洋近代の芸術観
第7回	日本における「芸術」概念の導入
第8回	芸術の「普遍性」？（1）
第9回	芸術の「普遍性」？（2）
第10回	カルチュラルスタディーズの考え方
第11回	ジェンダーと芸術
第12回	大衆と芸術
第13回	文化における芸術の位置（1）
第14回	文化における芸術の位置（2）
第15回	まとめ

授業外学習

展覧会、コンサート、演劇やダンスの上演などから個々人が選択して鑑賞したうえで、テーマを絞って問いを立て、考察のレポートを書く。

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	3 年
対象	21 ～ 19 l
単位数	2．0 単位
担当教員	 守田均

授業の概要

先人が残した絵画、彫刻、工芸、建築物といった文化財は、現在に生かし、かつ後代に継承すべき人類共通の貴重な財産である。文化財学の重要性を認識し、現代社会における文化財の状況を把握し、なすべき道筋を見極めることを目指す。

到達目標

現代社会においての文化財の重要性を理解し、その保護と活用に実際に取り組むための基本的姿勢を身に付ける。

評価方法

課題レポート中心に評価する。

注意事項

所定の提出物を全て提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	はじめに
第2回	文化財の定義と種類（1）
第3回	文化財の定義と種類（2）
第4回	歴史的背景（1）
第5回	歴史的背景（2）
第6回	現代社会と文化財（1）
第7回	現代社会と文化財（2）
第8回	文化財行政（1）
第9回	文化財行政（2）
第10回	日本における文化財史
第11回	日本における文化財の現状（1）
第12回	日本における文化財の現状（2）
第13回	世界における文化財の現状（1）
第14回	世界における文化財の現状（2）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

独自で文化財を鑑賞・体験し、知識を深めておくこと。

教科書

プリントを配布する。

参考書

必要に応じて指示する。

備考

プロジェクト実習Ⅱ（22652）

後期

Project Practice Ⅱ

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	3年
対象	22～191
単位数	1. 0単位
担当教員	 赤木恒雄

授業の概要

専門分野の諸問題を自分で解決し、地域社会の構成員として活躍できる能力を育成する科目である。

この授業は、プロジェクトを立ち上げた教員の指導の下、大学内外で各学年の学生がボランティア的に協力し合って、合同でプロジェクトを遂行する。なお、「プロジェクト実習Ⅱ」は上級生のアドバイスを受け、また下級生にアドバイスを与えながら活動する。例えば、地域の活動のインターネット中継や、学内の研究活動を学外の人に向けての発表・展示会、サーバー構築、ネットワークの機器のセットアップや更新作業などがある。

到達目標

1. グループのメンバー同士で協調して作業を遂行できる。
2. 自ら考え行動する習慣を身につける。
3. 報告、連絡、相談をする習慣を身につける。

評価方法

- ・プロジェクトごとに担当教員から認定コマ数が伝えられる。認定コマ数の合計が10コマ以下の場合には単位は認定されない。
- ・評価は、各プロジェクトに取り組んだ姿勢60%、報告書の内容40%、認定されたコマ数から総合的に判断する。

注意事項

- ・プロジェクトは前期から実施されるので、この授業の単位を取得したい場合には、前期からプロジェクトに積極的に参加することが望ましい。
 - ・どのプロジェクトに参加するかは自分で選択できるが、教育の都合上、定員をもうけることもあり、必ずしも希望通りにプロジェクトに参加できるとは限らない。
 - ・プロジェクト実習Ⅱが履修できるのは3年次のみである。
- ◎プロジェクトごとに活動内容をまとめた報告書の提出を義務づける。

授業計画

各プロジェクトごとに内容を伝える。1つのプロジェクトで認定されるコマ数は2～10コマ程度である。複数のプロジェクトに積極的に参加し、参加したプロジェクトのコマ数が11コマ以上になるようにすること。

授業外学習

学習時間の目安は合計30時間である

プロジェクトを遂行するための準備、レポート作成等については、プロジェクトごとに指示をするので、積極的に取り組むこと。

教科書

必要な場合にはプロジェクトごとに指示する。

参考書

必要な場合にはプロジェクトごとに指示する。

備考

プロジェクト実習Ⅲ（22653）

後期

Project Practice Ⅲ

産業科学技術学部 経営情報学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 l
単位数	1． 0 単位
担当教員	 赤木恒雄

授業の概要

専門分野の諸問題を自ら解決し、地域社会の構成員として活躍できる能力を育成する科目である。この授業は、プロジェクトを立ち上げた教員の指導の下、大学内外で各学年の学生がボランティア的に協力し合って、合同でプロジェクトを遂行する。なお、「プロジェクト実習Ⅲ」は学生リーダーとなって下級生にアドバイスを与えながら活動する。例えば、地域の活動 のインターネット中継や、学内の研究活動を学外の人に向けての発表・展示会、サーバー構築、ネットワークの機器のセットアップや更 新作業などがある。

到達目標

- 1．グループのメンバー同士で協調して作業を遂行できる。
- 2．自ら考え行動する習慣を身につける。
- 3．報告、連絡、相談をする習慣を身につける。

評価方法

- ・評価は、各プロジェクトに取り組んだ姿勢60%、報告書の内容40%、認定されたコマ数から総合的に判断する。
- ・プロジェクトごとに担当教員から認定コマ数が伝えられるが、認定コマ数の合計が10コマ以下の場合には単位は認定されない。

注意事項

- 1．学科の様々なプロジェクトに参加する予定の学生は、履修登録を必ずしておくこと。
- 2．プロジェクトは前期から実施されるので、この授業の単位を取得し たい場合には、前期からプロジェクトに積極的に参加することが望 ましい。
- 3．どのプロジェクトに参加するかは自分で選択できるが、教育の都 合上、定員をもうけることもあり、必ずしも希望通りにプロジェクトに参加できるとは限らない。
- 4．プロジェクト実習Ⅲが履修できるのは4年次のみである。
- 5．プ ロジェクトごとに活動内容をまとめた報告書の提出を義務づける。

授業計画

各プロジェクトごとに内容を伝える。1 つのプロジェクトで認定されるコマ数は2～10コマ程度である。複数のプロジェクトに積極的 に参加し、参加したプロジェクトのコマ数が11コマ以上になるようにすること。

授業外学習

学習時間の目安は合計30時間である。

プロジェクトを遂行するための準備、レポート作成等については、プロジェクトごとに指示するので、積極的に取り組むこと。

教科書

必要な場合にはプロジェクトごとに指示する。

参考書

必要な場合にはプロジェクトごとに指示する。

備考

年次	4 年
対象	22 ～ 19 l
単位数	8．0 単位
担当教員	 赤木恒雄

授業の概要

ゼミナールⅢでは「魅力あるまちづくり」を行うために、生涯学習の視点から行政、企業、住民等の活動について、議論検討してきた。卒業研究では、ゼミナールⅢでの討議を踏まえて、「魅力あるまちづくり」を行うために、各自が選択した視点、領域から、研究内容を絞り込み、研究テーマを設定する。さらに、視察・調査等を通して、それらの内容を発展・深化させる。そして、卒業論文に仕上げる。

到達目標

- 1．卒業論文の作成を通して、「魅力あるまちづくり」に学習が欠かせないことを理解する。
- 2．論文の作成を通して、物事を論理的に捉え、考え、整理する能力を修得する。
- 3．自ら積極的に、様々な課題に取り組み、解決し、提言していくことの出来る能力・態度を修得する。
- 4．卒論発表を含め、自分の考えを様々な方法を用いて、他者に伝える力を修得する。
- 5．卒業論文を制作することを通して研究論文の基本的なことを修得する。

評価方法

授業における発表（20％）、それをめぐる討議への参加状況(30％)、及び卒業論文（50％）に基づき総合的に評価する。
到達目標1，2，3は討論への参加状況と卒業論文、4は授業における発表、5は卒業論文により評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・ゼミでは卒論の進捗状況を定期的に発表してもらう。
- ・ゼミ中には積極的に自分の意見を述べること。
- ・途中で中間発表を行う。
- ・卒業論文を原則として1月半ばまでに完成させること。
- ・各自が主体的・計画的に卒業論文の作成に取り組むこと。

授業計画

- 第1週：オリエンテーション
第2週～第3週：研究テーマの設定
第4週～第9週：研究文献の収集及び論文構成等の指導
第10週～第16週：個別指導
第17週～第18週：中間発表
第19週～第20週：論文構成等の指導および個別指導
第21週～第25週：個別指導
第26週：卒業論文の完成及び仮提出
第27週～第29週：個別指導
第30週：卒業論文の完成及び提出

授業外学習

- ・早めに興味ある分野の資料を読み、卒業論文のテーマを設定すること。
- ・論文作成に必要な資料を読み込むために、十分な時間を取ること。
- ・論文作成に必要な資料を収集するために、まちづくり事業等に積極的に参加し、体験すること。

教科書

ゼミ中に指示する。

参考書

ゼミ中に指示する。

備考